



食と農のわくわくSDGs学習

令和7年度実施校 実践事例集



新潟市
新潟市教育委員会



新潟市食育・花育推進キャラクター
まいかちゃん

目 次

令和7年度実施校

1. 木崎小学校(3年)
「大好き新潟『教えてあげる木崎のひみつ』」……………1
2. 桃山小学校
「ダイズはダイジ！～レッツゴー！桃山豆探検～」(3年)……………3
「桃山の食を極めよう～発信！桃山特製セット～」(5年)……………5
3. 両川小学校(4年)
「おもてなしプロジェクト2025」……………7
4. 小合小学校(3年)
「大好きにいがた『小合のお宝発見』『小合の花は地域の宝』」……………9
5. 矢代田小学校(6年)
「おいしく食べよう 見つめよう未来 -もち麦プロジェクト-」……………11
6. 大鷲小学校(3年)
「ワンダフル ベジタブル！！」……………13
7. 白根小学校
「作ろう 学ぼう 大豆のチカラ」(3年)……………15
「おいしいね！しろねの『食』探検隊～『食』について考えよう～」(5年)……………17
8. 内野小学校(3年)
「内野の恵みを大発見！新たな内野ブランドへの挑戦！」……………19
9. 黒埼南小学校(3年)
「未来へ輝く 黒埼の『茶豆・ブロッコリー栽培』」……………21
10. 岩室小学校(5年)
「お米を育てよう」「さつまいも栽培活動」……………23
11. 中之口東小学校(5年)
「おいしさいっぱい 中之口」……………25
12. 中之口西小学校(5年)
「大好きにいがた体験 『米にコメろ！中之口！～農業に託す思い～』」……………27
13. 南浜中学校(1年)
「南浜サツマイモプロジェクト(SP)」……………29
14. 小新中学校(2年)
「前期:小新ハローワーク(私たちが、よりよく生きるために取り組んでいきたい仕事)」
「後期:小新ジャーニー(新潟の過去・現在を知り、未来を語り合おう)」……………31
15. 新潟青陵高等学校(1年)
「オリジナルの笹団子づくり／青陵米プロジェクト」……………33
16. 日本文理高等学校(1年)
「食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりしよう」……………35
17. にいがた製菓・調理専門学校えぷろん(2年)
「食育活動実習」……………37

18. シェフパティシエ専門学校(2年)	
「地域(新潟市、新潟県)の特産品を活用した商品開発をしよう」	39
19. 国際調理製菓専門学校(1年)	
「新潟の食材で魅力ある商品を生み出し地域に貢献しよう」	41
20. 新潟医療福祉大学 健康栄養学科(3年)	
「公衆栄養プログラムの作成」	43
21. 新潟国際情報大学(1～4年)	
「食と農の未来を探る ースマート農業・自然栽培・6次産業化ー」	45
22. 新潟大学(3年)	
「食品科学プログラム実地見学」	47

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	木崎小学校		学年	第3学年 (61名)		
教科等	総合的な学習 (探究) の時間		関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくりを		
単元名	大好きにいがた「教えてあげる木崎のひみつ」(40時間)					
ねらい	自分たちの暮らす木崎のよさについて、様々な立場の人の意見を聞いたり、ゲストティーチャーから話を聞いたりすることを通して、地域や地域の人とのつながりを大切にしようとする。					
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識) 木崎地区の野菜は、地域の農家の思いによって継続できていることを理解している。</p> <p>・(自在に活用する技能) 調査結果を目的や対象に応じて実施することができる。</p> <p>・(探究的な学習のよさの理解) 地域の特産物を作り出すことは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題につながることに気付いている。</p> <p>【思・判・表】・(課題の設定) 木崎地区の野菜の栽培や販売について、自分なりの課題を設定するとともに、解決に必要な方法を明確にしながらい計画を立てている。</p> <p>・(情報の収集) 木崎地区の野菜の栽培や販売について、現状や問題を理解するために必要な情報を目的に応じた方法を選びながら収集している。</p> <p>・(整理・分析) 木崎地区の野菜を誇りにするために、コラボ商品や広報活動を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにしている。</p> <p>・(まとめ・表現) 木崎地区の野菜を誇りにするために、コラボ商品販売の宣伝のために具体的な活動を決定している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 木崎地域の野菜を広めたいという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。</p> <p>・(主体性・協働性) 自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探求活動に取り組んでいる。</p> <p>・(将来展望・社会参画) 自分と農家、集荷センター、農家レストランとのつながりに気付き、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。</p>					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏野菜	夏野菜		夏野菜		秋野菜	
<ul style="list-style-type: none"> JA 木崎の職員と区役所職員の授業、「野菜作りの歴史やこれからの農業の展望」 トマト農家、サツマイモ農家の授業、「栽培の工夫・喜びと苦労」 トマトの食べ比べ。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭の授業「旬の夏野菜と栄養」 キッチンわくわくの店長の授業。 農家レストラン店長の授業、「地場産物の良さや店長の夢」 夏野菜コラボおかず考案。 地域の畑で、サツマイモ「しるきーも」を地域の人との苗植え。 		<ul style="list-style-type: none"> わくわくファーム豊栄店にてトマト宣伝と夏野菜コラボおかず販売宣伝活動。 直売所(わくわくファーム・元気村)・葛塚市、木崎青果物センター地場産物の流通見学。 		<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭の授業「旬の秋野菜と栄養」 農家レストラン店長の授業、「地場産物の良さとおいしいピザ」 	
専門家講師の派遣	交通費の支援		専門家講師の派遣	交通費の支援		
サツマイモ農家 5,000円 (5月8日) 5,000円×2名 (5月13日)	使用料及び賃貸料/バス代 横土居ファーム苗植え 41,016円 (2学級分)	報償費	わくわくファーム5,000円 トマト農家5,000円	使用料及び賃貸料/バス代 わくわくファーム 47,352円 (2学級分)	農家レストラン店長 5,000円	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
秋野菜	秋野菜		秋野菜			
<ul style="list-style-type: none"> 収穫したサツマイモの活用方法を考える。 調理師専門学校から講師を招いて調理実習。 小中合同「お弁当の日」の授業。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の畑で、サツマイモ「しるきーも」を地域の人との収穫。 しるきーもピザ考案。 販売活動の計画準備。 農家レストランと連携して販売。(食育フォーラム、しるきーもマルシェ) 		<ul style="list-style-type: none"> ものづくりマイスターの「しるきーもスイーツ」の授業。 今後の農業について、自分たちができそうなことを考えて区役所へ提案。 			
専門家講師の派遣	交通費の支援		専門家講師の派遣	学習成果の発信		
農家レストラン店長アドバイス 5,000円	使用料及び賃貸料/バス代 横土居ファーム収穫 41,016円 (2学級分)	ものづくりマイスター	スイーツづくり7,600円×1名 5,200円×1名			

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 木崎小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

① 従来の総合的な学習（探究）の時間

- ・インターネット検索や家庭での調べ学習が中心で、情報が表面的にとどまりがちだった。
- ・子ども自身が地域の人と直接関わる機会が少なく、地域理解が実感を伴いにくかった。
- ・学習が「調べて終わり」になり、探究的な深まりや主体的な学びにつながりにくかった。



レストラン店長からのアドバイス

② 今回の学習での改善点

- ・多様な立場の地域の人から直接話を聞く学習に転換し、実感を伴う学びを実現した。
- ・ゲストティーチャーとの対話や体験活動を取り入れ、地域とのつながりを体感できる学習にした。
- ・木崎のよさを「自分たちの言葉」で語れるようにするため、体験・交流・調理実習など多面的な活動を設定した。
- ・農家・行政・飲食店・専門学校など、地域の多様な専門性を生かした学びを構築した。

③ SDGs の視点

- ・SDGs 11「住み続けられるまちづくりを」
地域の魅力を知り、地域の人とのつながりを大切にすることを育成した。
- ・SDGs 12「つくる責任 つかう責任」
地場産物を使った調理実習や食育を通して、持続可能な消費の視点を育てた。
- ・SDGs 17「パートナーシップで目標を達成しよう」
行政・農家・飲食店・専門学校など、多様な協力者と連携した学習を構築した。

2 主な協力団体・協力者等

区役所職員様・JA 木崎様・トマト農家様・横土居ファーム様・直売所キッチンわくわく店長様・新潟調理師専門学校様・レストラン「ノラ・クチャー」店長様

3 成果

- ・意識調査では、「自分の町が好きだ」96%、「農業への関心が高まった」95%と回答した。
- ・多様なゲストティーチャーの話を聞くことで、地域の人々の努力や思いに気づき、地域への関心と親しみが高まった。
- ・実際に苗植えや収穫、調理実習などの体験を通して、「食」が地域の人々の仕事や工夫によって支えられていることを実感した。
- ・地域の魅力を自分の言葉で語れるようになり、木崎のよさを再発見する姿が見られた。
- ・地域の人と関わる活動を重ねる中で、感謝の気持ちや相手を尊重する態度が育った。
- ・学んだことをまとめたり発表したりする過程で、自分の考えを整理し、表現する力がついた。



食育フォーラム



地域の畑でのサツマイモ堀り



葛塚市見学

4 課題

- ・ゲストティーチャーの話を聞く前に、子どもが自分の疑問や関心を明確にする時間を十分に確保する必要がある。
- ・活動後の振り返りを、感想だけで終わらせず、学んだことを次の活動に生かす「探究の循環」を意識した振り返りに改善する。
- ・地域のよさだけでなく、課題にも目を向け、子どもが「自分にできること」を考える機会をさらに設ける。



考案したレシピ

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	桃山小学校	学年	第3学年（68名）		
教科等	総合的な学習（探究）の時間	関連SDGs	12 つくる責任 つかう責任		
単元名	ダイズはダイジ！～レッツゴー！桃山豆探検～（65時間）				
ねらい	大豆を中心にした豆について、栽培したり、加工品を調べたり、加工する体験をしたりすることを通して、豆は自分たちの食生活で身近なものであることに気づき、日々の食事に感謝の気持ちをもち、食べ物を大切にすることができるようにする。				
評価規準	<p>【知識・技能】・（概念的な知識）大豆などの豆の特性を知るとともに、様々な加工品になっていることから、自分たちの食生活に身近な食材であることを理解している。</p> <p>・（自在に活用する技能）体験活動やインタビューなどの調査活動を、目的に応じて実施している。</p> <p>・（探究的な学習のよさの理解）豆の良さについて、自分たちが学習したことを学校や地域の人たちに発信することは、持続可能な社会を実現する手立てとなることに気付いている。</p> <p>【思・判・表】・（課題の設定）私たちの食生活で豆が身近なものであることに気づき、豆のことを広めようとする課題を作り、解決における見通しをもっている。</p> <p>・（情報の収集）課題解決に向けて必要な情報や手段を考え、いろいろな方法で収集し、蓄積している。</p> <p>・（整理・分析）課題解決に向けて、情報や手段について比べたり分類したりして、自分の思いや考えをもっている。</p> <p>・（まとめ・表現）体験活動やインタビューなどの調査活動から分かったことを、表現や目的の対象に合わせてわかりやすくまとめ、伝えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）給食に携わる人、地域の人などのかかわりの中で、自分にできることを見つけようとしている。</p> <p>・（主体性・協働性）友達や地域の人など自分の周りの人の考えを聞きながら、協働して学び合おうとしている。</p> <p>・（将来展望・社会参画）学校内の一員としての自分や地域とのつながりに気づき、自分の周りの人のためにできることを考え、行動している。</p>				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<p>【豆博士になろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆の加工品を試食する。 ・豆について、知っていること、疑問に思ったことを話し合う。 ・豆の栽培について、専門家から話を聞く。 ・いろいろな豆の種類があること知り、栽培する。 ・栽培中に疑問に思ったことを調べたり、専門家に相談したりする。 ・豆の栄養について専門家から話を聞く。 <p style="text-align: right;">(10時間)</p>	<p>【豆の変身を探ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納豆工場に見学に行く。 ・豆腐の加工について調べ、作る。 ・栽培した豆を収穫する。 <p style="text-align: right;">(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったことをまとめる。 <p style="text-align: center;">(5時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・枝豆を収穫する。 ・枝豆のおいしい食べ方について教えてもらう。 ・枝豆パーティーをしたり、給食に出してもらったりする。 <p style="text-align: right;">(7時間)</p>		
交通費の助成・講師（畑の先生）			交通費の助成・講師（枝豆の先生）		
畑・納豆工場訪問バス代 80,000円（40,000円×2学級） 報償費 5,000円（畑の先生 5,000円）			畑訪問バス代 80,000円（40,000円×2学級） 報償費 5,000円（枝豆の先生 5,000円）		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>【立ち上がれ豆まめ隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食で豆料理の残量が多いこと、豆が苦手な児童が多いことを知る。 ・給食で豆の残量を減らすために、自分たちにできることを考える。 <p style="text-align: right;">(5時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの手で大豆から味噌に変身させる。 ・味噌作りについて調べ、自分が分かったことを専門家に聞いてもらう。 ・味噌の作り方をアドバイスしてもらう。 ・自分たちの手で大豆からきなこに変身させる。 ・給食のきなこメニューを考え、献立に入れてもらう。 ・給食での残量を減らすために、自分たちにできることを実践する。 <p style="text-align: right;">(25時間)</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが実践したことをまとめ、成長を確かめる。 <p style="text-align: right;">(3時間)</p>	
講師（栄養の先生） 報償費 5,000円（栄養の先生 5,000円）			講師（味噌の先生） 報償費 5,000円（味噌の先生 5,000円）		

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 桃山小学校 3学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・当校では、今年度どの学年でも総合的な学習の時間に「食」をテーマにした単元を計画した。特に3年生では、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」の視点を取り入れることで、単元のねらいや子どもたちに付けさせたい資質や能力を明確にすることができた。
- ・「食」はとても身近なものである。しかしながら、児童は自分たちが食べているものがどのように生産されているのか、食に携わる人々がどのような思いをもっているのかを考える経験は少ない。そこで、私たちの食生活に身近であり、様々な姿に形を変える「大豆」を学習の対象として取り上げた。
- ・対象の「大豆」とじっくりと関わることができるよう年間を通した大単元で構成した。1サイクル目は「豆博士になること」、2サイクル目は「全校のみんなが健康になってもらうために大豆を食べてもらうこと」を課題とした単元構成をした。
- ・問題を「自分事」として捉えることができるように、校内の栄養教諭、校区内の「桃山ファーム」、東区の「山ノ下納豆」さん、近隣区の大学講師、「峰村醸造」さんなど、児童が身近である場所、そこで働く方々と連携して活動を進めようとした。
- ・児童がより主体的に問題解決学習に取り組むことができるよう、3年生という発達段階を考慮し、実物と触れる機会を多くするようにした。畑に苗を植える、収穫する、食す、味噌やきなこに加工する体験活動などを取り入れた。
- ・児童が学習したことを表現する場として、「豆検定」をつくり全校に向けて発表することを計画したり、給食に自分たちが作ったきなこの献立を考え、食してもらうよう行動したりするなどの活動を計画した。



桃山ファームでの活動

2 主な協力団体・協力者等

- ・山ノ下納豆 様
- ・かんもりファーム 神田 大樹 様
- ・新潟医療福祉大学 健康学科講師 星野 芙美 様
- ・峰村醸造 小林 潤 様

3 成果

- ・栽培や収穫体験、工場の見学、加工体験などから、児童が「大豆」をより身近にとらえることができた。
- ・協力者との連携は単発で終わらずに、複数回にわたって継続的に行った。「畑の先生、神田先生」「栄養の先生、星野先生」などと呼び、児童にとって「人」との関わりも充実したものとなった。ビデオレターが届くと喜んだり、聞きたいことがあると自分たちで電話をしたりし、学びを深めることができた。
- ・児童の学びは、学習発表会「ピーチイ桃山」で「豆検定」を入れながら、歌やダンスで表現した。保護者からは「総合で学んだことがよく伝わっていた」「成長を感じた」という声があった。また、全校児童からは「豆の変身についてよく分かった」「3年生の発表がすばらしかった」などという声があり、児童の自信につながっていた。
- ・給食で、大豆そのものや大豆の加工品が入っているかを確認して食べる姿が見られた。また、「大豆について学習している自分たちが大豆製品を残すのはよくないので」と考え、給食を残さず食べたり感謝して食べたりするなど、食生活を改善しようとする児童が多く見られた。



納豆工場の見学



栄養の先生に質問



学びを発表



味噌作り体験

4 課題

- ・来年度も同じ活動をするを前提とするのではなく、児童の実態に応じて、改善していく必要がある。年度末や年度始めに単元を計画したり共通理解を図ったりすることが難しく、学習のスタートが遅くなるのが懸念される。
- ・今年度は学校の畑が狭いため、校区内の畑を借り「桃山ファーム」と称して苗植え、収穫を行った。児童の足では往復だけで時間がかかるため、この事業からバス代を支援していただいたことはとてもありがたかったが、児童の大豆栽培への関心を継続させるには、もっと近隣の場所での栽培が望ましい。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	桃山小学校	学年	第5学年（92名）		
教科等	総合的な学習（探究）の時間	関連 SDGs	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
単元名	桃山の食を極めよう～発信！桃山特製セット～（70時間）				
ねらい	地域の野菜や米、食に携わる人について、おいしく食べる工夫を調べたり、発信したりする活動を通して、地域に愛着をもち、これからの自分の食を考えることができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識) 地域の野菜や米について知るとともに、食に携わる人が努力したり工夫したりしていることを理解している。</p> <p>・(自在に活用する技能) インタビューやアンケート等による調査を、目的や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>・(探究的な学習のよさの理解) 自分たちが住む地域のために学習したことを、地域や他者に発信することが、持続可能な社会を実現できる手立てとなることに気付いている。</p> <p>【思・判・表】・(課題の設定) 地域の人々の思いや米作りの問題点から課題を作り、解決の見通しをもっている。</p> <p>・(情報の収集) 課題の解決に必要な情報を手段を選択して多様に収集し、蓄積している。</p> <p>・(整理・分析) 課題の解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し、考えている。</p> <p>・(まとめ・表現) 地域の食材や食文化について、表現の目的や対象に合わせてまとめ、発信している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 地域の人とのかかわりの中で、自分にできることを見つけようとしている。</p> <p>・(主体性・協働性) 友達や外部の方のアドバイスを生かしながら、仲間と協働して学び合おうとしている。</p> <p>・(将来展望・社会参画) 自分と地域とのつながりに気付き、地域のためにできることを考え行動している。</p>				
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
<p>【桃山みそ汁を作ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃山特製みそ汁を作る計画を立てる。(家庭科との連携) ・みそ汁に適した野菜、学校畑で栽培可能な野菜を調査する。 ・ゲストティーチャーに話を聞き、食材を考えたり選んだりする。 ・学校畑で野菜を栽培する。(事前に植えておいたものを観察する) <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校畑で野菜を収穫する。 ・畑の先生の野菜作りに対する思いを知る。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した野菜でみそ汁を調理する。 ・全校に「桃山特製みそ汁」を給食で提案し、ふさわしいものを選んでもらう。 <p>(10時間)</p>	<p>【新潟のお米をおいしく食べよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の消費量が減少していること等、問題点を知る(社会科との関連) ・炊き方によってお米の味が変わることを知る。 ・「ごはん・みそ汁セット」で広めるための計画を立てる。 <p>(5時間)</p>		
ゲストティーチャー（畑の先生・みそ汁の先生）の講話・交通費の支援			ゲストティーチャー依頼（蒲鉾生産者）		
報償費 10,000 円 (5,000 円×2名) 畑訪問バス代 96,800 円			報償費 5,000 円 (5,000 円×1名)		
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
<ul style="list-style-type: none"> ・米の品種の食べ比べをしたり、米の専門家の話を聞いたりして、新潟米のよさを知る。 ・米の炊き方によって味や食感等が変わることを知る。(水の量、温度、タイミング、蒸らし時間等) <p>(12時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・炊飯器の特徴を知り桃山特製みそ汁に合うご飯の炊き方お米の本来のおいしさを引き出す炊き方を追求する(プログラミング学習との連携) ・保護者や地域の方に自分たちが考えたごはんを食べ比べてもらい、特製みそ汁に合うご飯の炊き方等を調査する。 <p>(10時間)</p>	<p>【特製 ごはん・みそ汁セットを広げよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県の学校に「桃山特製ごはん」のプログラムやみそ汁レシピを送り、試食してもらい、感想をもらう。 ・地域差による「おいしい」の違いを学ぶとともに自分たちが住む地域の価値に気付く。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを振り返り、未来の自分の食や地域の食について考え、表現する。 <p>(3時間)</p>		
ゲストティーチャー（蒲鉾生産者等）			ゲストティーチャー（炊飯器開発企業）		
報償費 30,000 円 (5,000 円×6名)			報償費 5,000 円 (5,000 円×1名)		



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

学校名 桃山小学校 5学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

・児童は、自分たちが住んでいる東区、特に桃山地区について「これ」という特産品を挙げるのが難しい。この状況や児童の実態を踏まえ、地域の良さに気付いたり地域への愛着をもったりすることができるよう、次のような単元を計画した。

①桃山地域の福祉の視点で惣菜や弁当を販売している方に語ってもらう時間を設定する。児童はゲストの「地域の方への温かさを届けられる飲み物を販売したい」という思いを聞き、「桃山特製みそ汁を考案したい」という思いをもつと考えた。

②畑の先生と共に活動し、栽培する野菜を児童に決定させたいと考えた。児童は話を聞き、対話することで、砂丘地という土地の特徴や時期を考慮すると、「小松菜」がふさわしいと考え、選択するだろうと予想した。また、児童が主体的に特製みそ汁を考案できるように、校区内に畑を借用して小松菜を植える活動を取り入れた。

③東区に工場がたくさんあることに気付かせたいと考えた。かまぼこ工場や製麺工場と連携し、そこで働く方の思いや願いを知ったり、桃山特製みそ汁に入れたりすることができるように計画した。

④思考を整理させるため、Yチャートを用いた。対象を「桃山の地域の人」とし、「健康になってほしい」「桃山らしさを感じてほしい」「何度も食べてほしい」という3つの観点を意識し、個人の思考、グループの思考を整理させていくことにした。

・家庭科で「和食の基本」について学習する。みそ汁とご飯が和食の基本であることから、「ご飯」の炊き方に着目させる。今年度はパナソニック株式会社と連携し、プログラミング炊飯器の学習を取り入れることにした。ご飯を鍋で炊く、一般的な家庭での炊飯器で炊く、プログラマブル炊飯器で炊くなど、対象と関わりトライ&エラーをさせる時間を確保した。プログラミングで繊細な味の違いを体感させたいと考え、同じ米の品種を炊き、食感を可視化させ、比較させることに挑戦した。



桃山ファームでの活動

2 主な協力団体・協力者等

- ・かんもりファーム 様
- ・惣菜、弁当まあぶる 様

- ・パナソニック株式会社 様
- ・かまぼこ工場 柳都入船 様
- ・相馬製麺所 様



プログラミングをして
ご飯を炊いてみよう



みそ汁試食会

3 成果

・実際の販売前に、保護者に向けた試食会を行った。自分たちの思いをのせた「桃山特製みそ汁」を実際に食べてもらうことで、相手意識が明確になり、児童の意欲がさらに高まった。「健康」「桃山らしさ」「繰り返し食べたい」の3観点について対象から意見をもらうことで、「よりよいものを販売したい」という思いと「桃山らしさが伝わらなかった」という反省点をもった。実際の販売では、地域の人に、具に込めた思いや考えを発信するためのチラシや呼び込みなどで宣伝したり、自分たちが考案したみそ汁を手渡したりと、主体的に地域の人と関わろうとする姿が見られた。



地域に向けたみそ汁販売

・プログラマブル炊飯器でのご飯の炊き方の学習では、繰り返し炊飯することに挑戦し、味や食感の違いを分析したため、児童が繊細な味や食感の違いに気付くことができるようになった。プログラミングの方法を理解し、「〇〇なご飯を炊きたい」と自分なりの思いをもってプログラミングするだけではなく、実際に自分のプログラミングで炊いたご飯を分析し、「うまくできた」「時間温度をもっとこうすると良い」と評価した。さらに自分の思いに近付けたいと自らプログラム資料を収集しようとする姿が見られた。



自分の「おいしい」をのせた
炊き方プログラム

4 課題

・児童のみそ汁とご飯の思考が、もっとつながるように計画することが必要である。野菜の収穫時期、ゲストティーチャーとの連携のタイミングなどを考えて進めることが大変であった。短期間でテンポよく思考をサイクルさせるとよいと考えた。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	両川小学校		学年	第4学年（24名）				
教科等	総合的な学習（探究）の時間		関連 SDGs	13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう				
単元名	おもてなしプロジェクト2025（53時間）							
ねらい	学校の表に広がる梨畑に着目し、なぜこの場所で梨が名産になった背景、地元で梨栽培を守り育てる人の熱い思いを手掛かりに、SDGsの視点で両川の名産の梨を見直し、よさをアピールすることができる。							
評価規準	<p>【知識・技能】・（概念的な知識）水没しても枯れない水害に強い作物 和梨に加えルレクチエも栽培 名産にしたい思い（参考）事実に基づく知識・両川は梨で有名、地元の人が栽培している、食べて美味しい、何種類もある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（自在に活用する技能）見えるものを整理 見方を変えたり体験したりして見えない価値に実感を伴って気付く ・（探究的な学習のよさの理解）見えることをスタートに、見えない価値に気付く学びの旅 <p>【思・判・表】・（課題の設定）なぜ両川で梨栽培が盛んになったのか 両川の梨栽培をどうやったら守れるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（情報の収集）どのような場所で梨を栽培しているのか？ なぜ梨だったのか？ 両川産の梨栽培の問題点は？ ・（整理・分析）マップ⇒小阿賀野川沿いに分布⇒水没しても生き延びる⇒水害に悩まされる土地に理想的な作物 高齢化問題 気候変動 ・（まとめ・表現）アピタパワー新潟亀田店でのアピールに向けた20の作戦および現地でのアピール活動 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）この地域に住む自分を見直し、地域の特徴やよさを理解しようとする。他者の考えを受け入れ尊重しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（主体性・協働性）自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む。友達や助言してくれた大人の考えも生かしながら、協力して問題の解決に取り組む。 ・（将来展望・社会参画）この地域に住む自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける。自分にできることを考えながら自分ごととして取り組もうとする。 							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
	<p>梨の栽培活動 開始</p> <p>①岩崎農園の方から教えてもらいながら、梨の栽培活動を開始する。 4月 花粉付け 5月 摘果 6月 袋付け 9月 収穫</p> <p>②堀川農園の方からおしえてもらいながら、梨の栽培活動を開始する。 4月 花粉付け 5月 摘果</p> <p>③JAにいがたの方と出会う。</p>		<p>にいがた元気プロジェクト 参画</p> <p>①にいがたまるごとSDGs実行委員の方から新潟市で取り組むSDGsについて学ぶ。 ②私たちにできるSDGsを考える。</p>		<p>SDGsプロジェクトを「梨」で取り組むことに決定</p> <p>①「梨」をテーマにSDGsに取り組むことに決定する。 ・水害に強い作物だから栽培⇒小阿賀野川沿い ・SDGsを生涯の仕事に決めた人に共感 ・梨畑広がる自然豊かな故郷の景色を守り育てることを生涯の仕事に決めた人に共感</p> <p>②SDGsの取組として梨のアピールを校外で行う。 場所；アピタパワー新潟亀田店</p>		<p>アピールの準備をしよう！ ～アピール成功への道「20の作戦」～</p> <p>①アピール成功に向けた作戦を考え、20個に整理する。（※可能ならスイーツにして販売もしたい） ②関係者に作戦をプレゼンして、助言をいただく。 ③役割分担をして準備をする。 ④リハーサル⇒反省会⇒改善策話し合い⇒本番（15時間）</p>	
	専門家の派遣（摘果・袋付け・収穫と作戦への助言） 岩崎農園 古泉修行様 講師謝礼 6,200円 7,600円							
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	<p>校内リハーサル</p> <p>①教室を展示場に見立ててディスプレイ ②係りごとに練習 ③先生方にお客さんになっていただきリハーサル</p>		<p>反省会と作戦会議</p> <p>①リハーサルを実際に終えてみての反省を挙げる。 ②本番のアピールに向けてよりよい作戦を立てる。 ③目標を再設定しリハーサルする。</p>		<p>アピタ新潟亀田店での梨のアピール</p> <p>①宣言 ②販売の補助 ③行き交う人への宣伝 ④アンケートの依頼と回収</p>		<p>SDGs 成果発表会</p> <p>・にいがたまるごと SDGs 実行委員の方や梨農園の方、JAにいがたの方を招いて、学んだことを伝える。 ・最後にお礼の言葉を伝える。</p>	
	交通費の支援（アピタ新潟亀田店） バス代 40,700円 （支援 40,000円）							



SDGsで3つの視点を

□ :未来も
 □ :まわりも
 □ :みんなも

1 本単元作成のポイント、留意点等

○本単元を通して身に付けさせたい知識・技能を児童に獲得させるために、以下の点について重点をおいた指導を行った。

- ・概念的な知識として、水没しても枯れず水害に強い作物として和梨の栽培がこの地域に根付いたことに気付かせる。
- ・見える情報をきっかけにして、集めた情報の見方を変えたり実際に体験させたりすることで、新たな見方に気付かせたり、気付けなかったことに気付かせたりする。

○本単元を通して育みたい思考力・判断力・表現力を鍛えるために、以下の点について重点をおいた指導を行った。

- ・「なぜ両川で和梨の栽培が盛んなのか」という素朴な疑問をスタートに、「なぜ和梨だったのか」「両川産の和梨栽培は順調なのか」など児童個々の疑問を問いにして調べさせることで、「両川産の和梨のすばらしさを広めたい」という思いを醸成し、「どのようにしたら広められるか」を学級全体としての学習課題へと導くこと。
- ・獲得した情報を時間軸で再整理することで問題意識を醸成し、自分たちにできることで地域に貢献したい願いを持たせる。過去に、先人の努力で、過去に和梨の栽培が小阿賀野川沿いに集中していることから、水害に悩まされる地域での理想的な作物として和梨が広まったが、現在は、高齢化問題や気候変動による栽培困難などいくつかの問題を抱えていること。

○本単元を通して育みたい主体的に取り組む態度を鍛えるために、以下の点について重点をおいた指導を行った。

- ・自己理解・他者理解を促し深めるために、両川という地域を見つめ、地域の特徴やよさを出し合わせる。その際、相手の考えを受け入れ尊重する姿を誉めて伸ばす。
- ・主体性・協調性を育むために、自分にできることを考え自分ごととして取り組もうとさせる。また、友達や大人の助言を活かしながら協働で解決に向かうことができたかを振り返らせる。

2 主な協力団体・協力者等

- ・岩崎農園様
- ・アピタパワー新潟亀田店様



岩崎農園での和梨の栽培活動



アピタパワー新潟亀田店での販売

3 成果

① 和梨の栽培活動

梨の収穫までに、花粉付け、摘果、袋付けの作業がある。児童たちは、梨農家の岩崎夫妻に教えてもらいながら、作業を進めていった。そして10月には、無事に大きく実った和梨（新興）を収穫することができた。



大きく実った両川産和梨

② 何をしたら和梨のすばらしさを広められるか？

和梨の栽培と並行して、何をしたら両川産和梨のすばらしさを広められるか考えた。「新潟駅で宣伝したらどうか?」「新聞の広告を作ってみよう」と、いくつかの案が出ては消えていくことを粘り強く繰り返した。その結果、唯一「アピタパワー新潟亀田店」での直接販売の承諾を得ることができた。



掲示物を使った和梨栽培の説明

③ 直接販売を成功させる6つの作戦

児童たちは、和梨の完売を目指し、ミニチラシの配付・館内放送での呼び掛け・おまけプレゼント・お買い得コーナーの設置・試食コーナーの設置・両川産の和梨をアピールする自作の動画上映の6つの作戦を立て、分担して準備を進めた。販売日が近づくと、教室を販売会場にして、先生方をお客さん役にして直接販売の練習をした。実際に動いてみると、想定したことではとても足りない自分たちの言動に最初はがっかりしていたが、一つ一つの問題を解決するたびに、自信を付けていった。



大きな声で呼び掛けた試食コーナー

④ 11月11日(火)本番 わずか25分で完売！大成功！

10時15分、販売開始の合図とともに児童たちは一斉に動き始めた。試食を促す姿、館内放送する姿、ミニチラシを手渡す姿、壁面資料を使って梨栽培を説明する姿、梨を手にとってくれたお客さんにお礼を伝える姿、おまけを渡す姿など、友達と励まし合いながら必死に活動した。



用意した和梨は25分で完売

4 課題

児童との学習の進度に合わせてながら、協力団体・協力者との調整を上手に進めていくことが課題である。理由は、どちら一方だけで活動を進めることができないからである。言い換えれば、児童と協力者のお互いの願いの実現に向けて、いかに活動をコーディネートしていくかが、成功と失敗の分かれ道になるのかもしれない。



副店長さんと大成功を喜びました

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	小合小学校	学年	第3学年（13名）				
教科等	総合的な学習（探究）の時間	関連 SDGs	3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任				
単元名	大好きにいがた「小合のお宝発見」「小合の花は地域の宝」（65時間）						
ねらい	小合地域の花卉栽培について調べたり体験したりする活動を通して、栽培農家の花に対する思いに気付く。そして、小合の花に誇りを持ち、小合の花のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。						
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識) 小合地区の花卉栽培には歴史と伝統（チューリップの球根栽培発祥の地）があり、花卉栽培に思いを込めていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自在に活用する技能) 調査・体験活動を目的や対象に応じて実施することができる。 ・(探究的な学習のよさの理解) 小合地域の花卉栽培を知ることは、地域創生及び持続可能な社会を実現するために解決すべき答えになることに気付く。 <p>【思・判・表】・(課題の設定) 花卉栽培や広報活動について、自分なりの課題を設定するとともに、解決に必要な情報を明確にしながら計画を立てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(情報の収集) 花卉栽培や広報活動について、現状や問題点を理解するために必要な情報を、目的に応じた方法を選択しながら収集している。 ・(整理・分析) 「小合の花は地域の宝」となるために、花卉の種類・体験活動・広報活動を関連付け、具体的な理由や根拠を明らかにしている。 ・(まとめ・表現) 今後の小合小学校や小合地域のためにできることについて、花卉の種類・体験活動・広報活動を関連付け、目的に合わせて分かりやすくまとめている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 小合地域の花卉を知り、宣伝したいという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(主体性・協働性) 自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ・(将来展望・社会参画) 花卉栽培農家の望みを受け、小合の花卉栽培発展のために、花卉の活用方法や広報活動を考え、提案したり実践したりする。 						
4月	5月	6月	7月	8月	9月		
<p>【花を知ろう。花を育てよう。花で作ろう】</p> <p>○小合のまちを探索し、ビニルハウスが多いこと、花卉が多いこと、花卉専門店（花夢里こいつ）があることを知る。（社会科の時間）</p> <p>○小合地域の花いっばいの歌、小合とチューリップとの関係、生産者の花に込めた思い、新しい花卉を開発して代々受け継がれてきたこと、花の命、花のSDGs等を聞く。My鉢I（ミニクリスマスツリー、食べる花）を育てる。 ⇒講師① フラワーアドバイザー 中野節子様（2時間）</p> <p>○チューリップの花を集める。チューリップの花を使って、「小合小ウェルカムボード」を作る。 ⇒講師② にいがたチューリップ部 部長 上杉知之様 講師③ 日園 相談役 片岡道夫様（2時間）</p>		<p>【小合の花卉農家を見てみよう】</p> <p>○小合の花についてもっと知りたい。小合の花卉栽培農家を訪問し、花の生産から出荷までの思い、栽培の工夫、働く喜びや苦労等を聞く。 ※訪問する小合地区の花卉栽培農家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細川豊生園 ・坂原清花園 ・高正園 <p>○取材をまとめる。</p> <p style="text-align: right;">（20時間）</p>		<p>【花を食べよう。花で作ろう】</p> <p>○花を使ってできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押し花、食べる：生、花びらの塩、クッキー（2時間）⇒講師④ フラワーアドバイザー 中野節子様 ・ハーバリウムを作る（2時間） 			
専門家講師の派遣①		専門家講師の派遣②		専門家講師の派遣③		専門家講師の派遣④	
報償費① 7,600円		報償費② 7,600円		報償費③ 7,600円		報償費④ 7,600円	
10月	11月	12月	1月	2月	3月		
<p>【学んだことを発信しよう】</p> <p>○これまでの体験等をまとめる。（5時間）</p> <p>○学習発表会に、調べ学習で関わった方々を招待し、学んだことや、今後の挑戦を発表する。（3時間）</p>	<p>【花を贈ろう（自分・家族・卒業生）】</p> <p>○リサイクル体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックを集めてMy鉢IIを作る。できたMy鉢でチューリップを育て、卒業式で展示する。（5時間） ⇒講師⑤ フラワーアドバイザー 中野節子様 ⇒ 障がい者施設に協力依頼 ○My鉢Iのクリスマスツリーを完成させる ⇒ 講師⑥ フラワーアドバイザー 中野節子様（5時間） ⇒ 家族に贈ろう <p>○花の体験を通して、小合の花を有名にする方法を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバリウムを見てもらう ⇒ 文化祭、職員玄関、小合コミュニティセンター、花夢里こいつ 展示 ・ポップ広告作り ⇒ 小合コミュニティセンター、花夢里こいつ 展示（10時間） 		<p>【花で喜ばせよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と卒業生に押し花のペンダントをプレゼントする。（2時間） ・My鉢IIのチューリップを卒業式で展示する。 ・一人一鉢ビオラ栽培をし、卒業式・入学式でステージを飾る。 <p>○「小合の花は地域の宝」になることについて、活動のまとめをする。（5時間）</p>				
専門家講師の派遣⑤		専門家講師の派遣⑥					
報償費⑤ 7,600円		報償費⑥ 7,600円					

学校名 小合小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・「植物と環境」を大きなテーマとし、1種類の植物だけについて学習するのではなく、様々なことを単元の中に盛り込んだ。
- ・植物と地球環境が密接に関わっていることを学習するために、植物を育てたり、リサイクル活動を行ったりした。(いらなくなった花→花絵, プラスチックごみ→鉢)
- ・植物を1年間育てる活動を通して、上手く成長したわけ、枯れてしまったわけを考えさせるようにした。そのために、育てる植物は児童玄関前に置き、毎日見られるようにした。
- ・小合の地域に詳しい、地域教育コーディネーターに協力を仰ぎ、社会科と合わせて町探検に行った。見つけた地域の宝と地域の特産品を花や植物について結び付けながら自分たちの地域について関心をもたせた。
- ・チューリップ発祥の地であることを地域に発信するために花絵づくりをした。花絵づくりを1回目の学習参観日の2日前に行い、地域の方や保護者の方に見ていただいた(花絵は短期間しか見られないため)。
- ・花絵で使うチューリップは、形の整ったきれいな花を使うのではなく、球根を生産する際に不要になってしまう花をいただいて使用した。球根を生産する時に、不要になってしまう花があることにも気付かせ、活動の意義を考えさせた。
- ・園芸農家、植物、小合の花づくりについて、わからないことを整理・分析し、インタビュー活動を複数回行えるようにした(今回は3回)。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟市チューリップ部 上杉 知之様
- ・日園 片岡 道夫様
- ・大郷屋種苗, 和じゅく 中野 節子様
- ・細川豊生園 細川 正明様
- ・坂原清花園 坂原 邦博様
- ・高正園 高橋 隼也様



花絵でウェルカムボード作り

3 成果

- ・保育園や入学後のこれまでの生活の中で「小合=花」や「小合=チューリップ」と自分たちの住む地域を理解していた。今回の学習を通して、「花」が地域の中心であり、花卉栽培が地域の歴史を作ってきたことを学ぶ機会になった。
- ・自分たちにできること(木や植物を大切にすること、ごみを減らして植物を増やすなど)を講師の先生から教えていただいたことで、SDGsについて関心のなかった子どもたちが、進んでリサイクル活動を行うようになった。
- ・活動を通して、命を大切にすること、花や植物は人を笑顔にしたり喜ばせたりすることができる貴重な存在であることに、気付くことができた。
- ・単元を通して、地域の産業について詳しくなり、今まで以上に地域愛を育むことができた。

【児童の振り返り】

- ・自分たちで育てたコニファーをクリスマスツリーにするのがとても楽しかった。お家の人も喜んでくれてよかったです。これからも植物を大切にしていきたいです。
- ・園芸農家さんは、どんな仕事をしているのかわからないことが多かったけれど、直接インタビューしてみて、大変なところや、やりがいを知ることができた。
- ・植物を大切にすると、空気がきれいになって人間にも良いことがあることがわかった。これからも植物を大切に、地球にも優しくしていきたい。



コニファーの栽培



育てたコニファーで
クリスマスツリーづくり



園芸農家さんへの
インタビュー活動



食べられる花を
食べてみよう

4 課題

- ・4月～10月までの学習を学習発表会という場でアウトプットすることはできたが、その後、学んだことや体験したことを発信する活動ができなかった。どうしても、計画では体験が多くなってしまったので、簡単なまとめをすることしかできなかった。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	矢代田小学校	学年	第6学年 (35名)		
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 8 働きがいも経済成長を 12 つくる責任 つかう責任		
単元名	おいしく食べよう 見つめよう未来 —もち麦プロジェクト— (60 時間)				
ねらい	秋葉区産のもち麦について、ブランド化を目指す秋葉区の取組を調査したり、もち麦を用いた商品開発に取り組んだりすることを通して、食の提供者や生産者の思いを理解し、農作物を含めた自分と食との関わりについて考えを深めることができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】・食に関わる人々の思いと、郷土の食に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の流通に関する知識 ・伝えたいことを表現する技能 <p>【思・判・表】・課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・探究活動に進んで取り組もうとする (主体性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と違う考えのよさを理解しながら考えている (協働性) ・地域との関わりの中で自分にできることを見つけようとしている (社会参画) 				
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
<ul style="list-style-type: none"> ・秋葉区産業振興課の方から、もち麦プロジェクトの話聞く。 ・白銀カルチャーを見学し、農家の方の話聞く。 ・もち麦に関する情報をタブレット端末等を使って収集する。(8時間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・これまで収集した情報や体験をもとに、今後の活動目標 (もち麦を使った商品の販売) を設定する。 ・商品販売をする「ふれあいまつり」の実行委員の方から話を聞く。(8時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各開発商品を販売するふれあいまつりに向けた計画を考える。 ・様々な飲食店のチラシを収集し、チラシに掲載する情報について検討する。(8時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで商品開発をしてくれてきた飲食店の方と、開発商品について情報交換を行う。 ・ふれあいまつりで開発商品を販売する活動を行う。(10時間) 	
交通費支援			専門家の派遣		
バス代 40,000 円 (40,000 円 × 1 学級)			報償費 飲食店職員 5,000 円 × 2 名		
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
<ul style="list-style-type: none"> ・開発商品の購入者のアンケートを分析する。 ・分析したアンケートをもとに、次の活動の改善点を見いだす。(6時間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・もち麦や、開発商品のよさを再検討する。 ・2回目の販売活動に向けて、日程の検討や、会場の選定を行う。(6時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家からチラシの作成法に関する話を聞く。 ・2回目の開発商品の販売活動を行う (会場は交渉中)。 ・食をテーマに学習している他校の6年生とオンライン学習発表会を行う。 ・学習の振り返り作文を書く。(14時間) 		
専門家の派遣			交通費支援		
報償費 デザイナー5,000 円			使用料及び賃賃料 バス代 40,000 円 (40,000 円 × 1 学級)		



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

学校名 矢代田小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・秋葉区民の健康問題（血糖値の高さが8区の中でワースト）を取り上げ、食物繊維を多く含むもち麦による健康改善を目指す活動を計画した。
- ・もち麦商品を製作する店舗の方から、素材としてのもち麦の特徴、商品開発の苦労等を聞きながら、商品を試食する場を設定した。これにより、児童が五感を通して情報収集することをねらった。
- ・もち麦商品の販売活動を2回設定した。それにより1回目の活動の反省から、「より多様な地域の人に商品を食べてほしい」というSDGsの視点が生まれることをねらった。
- ・Webデザイナーからポスター作成の方法について学ぶ場を設定した。それにより相手意識を高め、「自分だけでなく、より多くの人に健康になってほしい」というSDGsの視点が生まれることをねらった。
- ・学習の成果発表を行う場として、小須戸小学校とのオンライン交流会を設定した。
- ・協力団体・協力者には、児童の活動の趣旨を説明した上で、協力を依頼する。
- ・もち麦商品の販売活動において、児童は商品の袋詰めと受け渡しのみを行い、金銭の授受には関与しない。

2 主な協力団体・協力者等

- ・白銀ファーム様（圃場の見学）
- ・サンカントピュール様（もち麦商品の製作）
- ・御菓子司 羽入様（もち麦商品の製作）
- ・イーキャラット様（ポスター作成の指導）
- ・道の駅たがみ様（販売活動場所の提供）
- ・山の手コミュニティ協議会様
（販売活動場所の提供）
- ・秋葉区産業振興課様（各種情報提供）



もち麦商品の販売

3 成果

（探究的な学習の視点から）

- ・児童は、秋葉区民の健康問題を知ることによって課題意識をもち、圃場を見学したり、商品の試食をしたりして情報を収集し、商品の購入者の声を分析して次の活動への改善点を見だし、成果発表会で自分たちの活動をまとめるといった一連の探究サイクルを辿りながら学習を進めた。
- ・Webデザイナーによる講話を設定したことで、今回の学習に限定されない汎用的な知識（ターゲットの明確化、伝える情報の精選、レイアウト等）を得ることができた。

（SDGsの視点から）

- ・秋葉区が地元の農業法人やJA、大学などと連携し、地域一体となった取組（SDGs未来都市への寄与）を推進していることを理解することができた。



圃場の見学



もち麦どら焼き



もち麦ドーナツ

4 課題

（探究的な学習の視点から）

題材がもち麦のみであったこと、もち麦商品が既に開発済み（2年前の6年生による成果物）だったことにより、児童が創造性を働かせて取り組む余地が限られていた。来年度は、題材を秋葉区の複数の食材、活動内容を弁当開発とし、良質な探究学習が展開されるように単元を見直す。

（SDGsの視点から）

1回目の販売活動を地元のまつりで、2回目を「道の駅たがみ」で行った。児童の「より多様な地域の人に商品を食べてほしい」という思いを叶えるのであれば、隣接していない地域で実施できる場所を検討するべきであった。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	大鷲小学校	学年	第3学年（16名）				
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	8 働きがいも経済成長も、13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを守ろう				
単元名	ワンダフル ベジタブル！！（70時間）						
ねらい	南区で盛んな野菜作りについて体験し、調べる活動を通して、農家の人々の苦労や思いを知り、食料生産・消費の課題とのかかわりについて考え、野菜作りのよさを発信することができる。						
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識) 自分たちの住む南区には地域の特色を生かし野菜づくりに励む魅力的な人、魅力的な野菜がある。 ・(探究的な学習のよさの理解) 野菜作りの課題を解決する方法を探ることで、課題にかかわる新しい知識や技能を知る。</p> <p>【思・判・表】・(課題の設定) 実際に野菜づくりに携わっている人から野菜の魅力や課題を的確に聞きとる。 ・(情報の収集) 課題解決のための情報を収集する方法を知る。 ・(整理・分析) 収集した情報を整理し、課題解決の方法を導き出す。 ・(まとめ・表現) どんな方法で発信するとよく伝わるかを考えて、まとめている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ・(主体性・協働性) 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ・(将来展望・社会参画) 課題解決の方法を考え、「私たちにできること」を考え、発信しようとしている。</p>						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生時の野菜作りを想起し、自分たちでも畑でおいしい野菜をそだてようという意欲をもち、地域の農家を訪ね、環境や消費者のことを考えた野菜作りについて知る。(地域の旬の野菜・土作り・消費者への思いを知る)、講義 →お農家の方と関わり、旬を生かした安心安全でおいしい野菜づくりの工夫や願いを知る。自分たちもできる野菜作りについて見通しをもつ。 ・農家の消費者にもつけた栽培の工夫・願い (10時間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・取材から得た栽培の工夫を取り入れ、キュウリやトマトを栽培する。 ・夏野菜のおいしい食べ方を知り実践する。廃棄される野菜を課題にする。 →地元の農方の方に取材し栽培方法やおいしい食べ方のレシピなどPRの方法を考え、実行する。(地元農家)(見学、講師招聘、体験・栽培)(20時間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの栽培の体験や地元農家との対話から、野菜づくり・消費の課題を見いだす。 ・課題解決に取り組む企業を取材する。 →ここまでの取組の結果をまとめる。 野菜づくり・消費の課題を知る。 ・消費拡大・廃棄ロス・環境への配慮(10時間) 		
	専門家講師の派遣			交通費の支援			
	地元農家 5,000円			バス代 20,008円 (エンカレッジファーマーミング)			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	<ul style="list-style-type: none"> ・大根を栽培し間引き菜の食べ方を考え、試食する。 ・野菜の消費量拡大・廃棄ロスの解消を考えた、メニューを考え、野菜を栽培する。 ・多様な食べ方ができるよう保存食やドライベジタブル、野菜チップスなどにも着目する。 →レシピを考え、実際に作ってみる。(地元企業を取材し、野菜ソムリエプロの協力によるレシピ考案)(調理、試食会、販売) (15時間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・消費拡大・廃棄ロスの解消のため保存食やドライベジタブルなど多様な食べ方を考え、自分たちでも取り組んでみる。 野菜の消費拡大・廃棄ロス解消のアイデアをまとめる。 →保存食としての野菜の食べ方を学び、試食会を行う。 →ドライベジタブルや野菜チップスを開発、キラキラマーケットで販売する。 (15時間) 				
	交通費の支援 専門家講師の派遣			学習成果の発信 交通費の支援			
	食推委員 5,000円 地元農家 5,000円	第6次産業従事者 10,000円 野菜ソムリエプロ 5,000円	バス代 17,632円 (新生バイオ)	第6次産業従事者 10,000円 地元農家 5,000円	野菜ソムリエプロ 5,000円	バス代 20,008円 (いっぺこーと)	



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

1 本単元作成のポイント、留意点等

地域に広がる田園やそこで育つ魅力的な野菜、よりよいものを作ろうと情熱をもって取り組む生産者との出会いをもとに、地域の食と農のよさや課題に向き合う学習を進めた。規格外野菜や廃棄ロスの問題について、見て・触れて・味わう体験を通して考え、「『もったいない』から『おいしい』へ」を合言葉に取り組んだ。

【出会いから見えた地元野菜の魅力と課題】

4月に近隣の農家から、野菜作りは土づくりから大切にしていることや、地元にはきゅうり王子や白根スイート（ミニ・ミディトマト）といったブランド野菜があることを教わった。一方で、規格外野菜が無駄になっている現状も知り、「今、自分にできること」を考えながら追究した。自ら野菜を育てて苦労や収穫の喜びを実感し、環境を管理して安定生産を行うエンカレッジファーマーリングを見学するなどして、課題解決の手がかりを得た。

【「もったいない」を「おいしい」に変える挑戦】

大根の育て方を農家の方から教わり、間引き菜をふりかけにして味わう体験を通して、規格外野菜も工夫次第でおいしく食べられることを学んだ。そこで、「もったいない」を「おいしい」に変える方法を考え、料理研究家の方のアドバイスを受けながら地元の新生バイオと連携して試作を重ね、「大根チップス」として商品化し、販売することを通してその価値や学んだことを PR した。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新生バイオ 田村和男様
- ・エンカレッジファーマーリング 近藤史章様
- ・JA かがやき様
- ・地元農家 川村朋生様 小林富雄様 高橋潤一様 田村和章様
五十嵐敏子様 中野玲子様
- ・野菜ソムリエプロ 古川浩子様
- ・食生活改善推進委員 羽田野紀子様

3 成果



地元農家の方から教わる野菜作りの魅力と課題



エンカレッジファーマーリング見学



考えよう やってみよう「もったいない」から「おいしい」へ



大根チップスの販売と PR

【1 出会いから生まれた切実な問い】

地元の農家の方との出会いを通して、土づくりを大切にする思いや規格外野菜の廃棄という現実を知り、課題を自分事として捉えるようになった。人との出会いがあったからこそ、「もったいない」を解決したいという切実感をもって学習に向かうことができた。

【2 地元農家・企業との連携が生んだ学びのリアル感】

実際に廃棄ロスの課題に取り組む地元企業と連携し、試作や改良を重ねたことで、学習が机上のものではなく社会とつながる学習となった。現実の課題解決に関わる経験を通して、食料生産と消費の課題を具体的に考える力が育った。

【3 商品化と販売が育てた自信と発信力】

完成した大根チップスを実際に販売し、食べてもらえたことは大きな達成感と自信につながった。地域の野菜のよさや自分たちの取組を伝える経験を通して、野菜作りの価値を発信しようとする主体的な姿が育った。

4 課題

見学先の紹介や商品開発に協力してくださる企業との調整、事前の打合わせなど学校だけでは進めることが難しい部分をつないでいただき、大変ありがたかった。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	白根小学校	学年	第3学年（81名）		
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任		
単元名	作ろう 学ぼう 大豆のチカラ（70時間）				
ねらい	大豆を育てるなかで問いを見出し、解決に向けて調査したり、情報を基に考えたりする力を育む。 大豆について、発見したり考えたりしたことをまとめたり、表現したりする力を育む。 大豆を育てたり、調理したりするなかで、地域の人たちとかかわりを深めようとする態度を育てる。				
評価規準	<p>【知識・技能】・（概念的な知識）白根地区は農業が盛んで、今後も農業への取組や人とのつながりは大切にしていくべきものであることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（自在に活用する技能）調査活動を目的や対象に応じて実施することができる。 ・（探究的な学習のよさの理解）自分の地域のために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 <p>【思・判・表】・（課題の設定）大豆作りについての関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（情報の収集）解決の見通しをもって、講師や家族、インターネットや書籍などを活用して情報を収集している。 ・（整理・分析）課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し蓄積している。 ・（まとめ・表現）課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し蓄積している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（主体性・協働性）課題解決に向け、協働して学び合おうとしている。 ・（将来展望・社会参画）年間を通した大豆の学習から、「大豆をもっと食べよう」という将来への展望をもつ。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・「白根をしようかしよう」で取り組み、白根の地域に関心をもつ。 ・白根の農作物現状や課題について、話を聞く。 ・白根から新潟に広げて考え、新潟が農作物の産地であることと、<食育>での大豆の学習から「大豆をもっと食べよう」（仮定）という課題をもつ。 <p style="text-align: right;">（10時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大豆を好きになるために、農家の方に栽培方法を教えてもらいながら、自分たちで大豆を育てる活動を行う。 ・大豆の栽培の仕方や大豆について調べ活動を行う。 <p style="text-align: right;">（10時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大豆を使った料理を調べ、夏休みに家庭で作り、休み明けに発表する。 ・大豆の加工品を知り、加工品から栄養をとる良さを考える。 ・枝豆を収穫・試食する。枝豆のおいしさの秘密について調べる。 <p style="text-align: right;">（10時間）</p>	
専門家の情報提供		講師の派遣		講師の派遣	
JA 新潟かがやき 白根北アグリセンター 営農指導員 無償		報償費 大豆の先生 5,200円		報償費 大豆の先生 5,200円 栄養士さん 7,600円	
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・大豆の収穫・脱穀をする。（10時間） 		<ul style="list-style-type: none"> ・大豆について調べたことや体験したことを新聞にまとめ、家族や地域の方に発信する。 <p style="text-align: right;">（5時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大豆を調べる活動に協力して下さった地域の方やお家の方に調べてわかったことなど学習の成果を発表し、感謝の気持ちを伝える。（5時間） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・大豆の加工品を作る。（豆腐・きなこ・みそなど）（15時間） 					
講師の派遣		講師の派遣		専門家講師の派遣	
報償費 大豆の先生 5,200円		報償費 大豆の先生 5,200円		報償費 みそ作りの先生 5,500円	
		交通費の支援 バス代 100,000円		学習成果の発信	

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 白根小学校 3 学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・新潟市は、米作り以外にも農作物の生産が盛んである。南区は、田畑が広がり、新鮮で栄養価の高い野菜作りがさかんな地域である。しかしながら、給食の残さいの量が多く、野菜や大豆などの豆類が苦手で、好き嫌いをする児童が目立っている現状がある。白根小学校では、総合的な学習の時間において、以前から地域の方のご厚意で畑を貸してもらい、大豆作りに取り組んできた。そこで、大豆を一から育てることで、大豆への関心を高め、大豆に愛着がもてるようにした。
- ・白根小学校で長年作り続けている大豆の品種は、「えんれい」という銘柄で希少価値が高いとのこと。この品種を今後も受け継ぎ、後世まで守っていく。
- ・今年度も地域と連携しながら、昔ながらの大豆作りを経験するとともに、SDGs の視点を取り入れて、大豆のよさを再確認した。
- ・大豆をもっと身近で有能な食材として児童が関心をもてるように、出前授業（高橋政子栄養士さん）を実施した。大豆は、豆腐や味噌、納豆、醤油など私たちの身近にある様々な食べ物に姿を変えている点や、大豆には、①体をつくる、②骨や歯のもとになる、③便通をよくする、など人間の機能を維持する上での大きな 3 つの働きがある等、児童の知らない大豆の魅力を教えてもらった。また、児童が好む白玉やハンバーグ等、親子で大豆を使った簡単レシピ（夏休みの課題）に取り組むことで、大豆のよさを家族と共有することにした。
- ・地域力を生かして、糍屋団四郎の藤井さんを招き、秘伝の味噌作りを教えてもらった。手間をかけると美味しい味噌ができるという体験学習を行った。

2 主な協力団体・協力者等

- ・大豆の先生 今井剛様
- ・栄養士 高橋政子様
- ・アグリパーク様
- ・糍屋団四郎（味噌屋）藤井寛様

3 成果

- ・栄養士の方から大豆の働きや魅力を教えて頂いたことで、大豆への見方や考え方が変わった児童が多かった。給食に出てきたときに、「これも大豆が使われているね。」と話す姿があった。
- ・アグリパークできな粉作りをしたことで、大豆の知識が増え、関心も高まった。
- ・きな粉、味噌作りは、校内での実施は物理的に難しく、市の施設（アグリパーク）の提供や講師の方の協力のおかげで非常に充実した体験活動ができた。
- ・「食と農のわくわく SDGs 学習」推進事業に参加することで、それまでの総合的な学習の時間の内容が一層深まった。
- ・大豆の収穫後の豆落としでは、昔の道具「唐箕」を使い、風の力を利用した選別作業を行った。手作業の大変さや楽しさを児童が実感することができた。



枝豆の収穫



アグリパークできなこ作り



唐箕での大豆の選別

4 課題

- ・児童が意欲的に問題意識をもつための導入の仕方や講師の活用を検討する必要がある。居住地域や大豆に特化すると、該当する講師や協力者団体が少ない。もう少し、テーマや視点を広げた方がよい。
- ・今年は2年生に向けて、大豆の加工品について iPad のロイロノートを使って発表をした。目的や相手意識を明確にし、発言や提言という活動に重点を置いて、取り組んでいく。例えば、学校行事や参観日などたくさんの方が集まる機会に SDGs 学習に関する発表や発言の機会を意図的に設定していく。また、給食センターに大豆を使ったメニューの提案をするなどである。
- ・昨今の酷暑などの気象条件を鑑み、活動時期や計画内容を見直す必要がある。



糍屋団四郎さんをお呼びした味噌作り

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	白根小学校	学年	第5学年（89名）		
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任		
単元名	「おいしいしろね！ しろねの『食』探検隊 ～『食』について考えよう～（70時間）				
ねらい	・南区白根の食料生産や農産物の特色に気付き、人、もの、ことにかかわる探求的な学習活動を通して、今後の地域や新潟市のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。				
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識) 新潟市南区は農業が盛んで、様々な人たちが関わっていることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自在に活用する技能) インタビューや質問などによる調査を目的や場面に応じた方法で実施している。 ・(探究的な学習のよさの理解) 自分の地域の米作りのために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 <p>【思・判・表】・(課題の設定) 地域の農業について関心をもち、課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(情報の収集) 課題の解決に必要な情報を、収集している。 ・(整理・分析) 課題解決に向けて、収集した情報を整理・分析している。 ・(まとめ・表現) 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 課題解決に向け、主体的に探究活動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(主体性・協働性) 他者とよりよく関わりながら、協働して学び合っている。 ・(将来展望・社会参画) 地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・南区（白根）の米作りについて話を聞き、苦労や工夫を知る。 ・農業に関することについて情報を集め、課題を設定する。 ・田植え体験をする。（15時間） 		<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な農業のための取組について、調べたり聞いたりする。 ・南区白根の農業について考え、課題を設定する。（10時間） 			
<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ・稲の成長の様子を見学し、手入れをする。（5時間） </div>		<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ・稲刈り体験をする。（5時間） </div>			
専門家講師の派遣 ファーム菱潟 社長 無償		専門家講師の派遣 農家の方 JA 職員 無償		専門家の情報提供 農家の方 無償	
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<div style="border: 2px dashed red; padding: 10px;"> ①スマート農業を行っている農家や農業関連工場に見学に行く。 ②学校田で収穫した米をアグリパークの米粉製粉機を活用して実習を行う。 </div>		<div style="border: 2px dashed blue; padding: 10px;"> ・収穫した米を使って、調理実習を行う。（10時間） </div>		<div style="border: 2px dashed green; padding: 10px;"> 南区白根の今後の農業について、学習をふり返り、まとめる。（15時間） </div>	
交通費の支援 使用料及び賃貸料 ① バス代 100,000円 ② バス代 100,000円			学習成果の発信		



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

学校名 白根小学校 5学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

児童は、これまでの社会科の学習から、「南区には、中之口川と信濃川に囲まれた肥沃な土地を利用した広大な田や畑があり、農業が盛んである」ことを理解している。また、白根はフルーツ王国と言われるほど果物の栽培も盛んであることを学んだ。そこで、5年生では、農作業の体験を通して、農家の仕事を学んだり、収穫の喜びを味わったりする従来の活動から、SDGsの視点を加えることで、学習を充実させることを目指した。その際、以下のポイントに留意して活動に取り組んだ。

① 新潟の農業の未来について考える

- ・講師を招き、新潟市の農業の昔と今について学習した。その課題から現在では、テクノロジーの進歩とともに農業の大型機械の導入とスマート化の工夫がより実践されていることを知った。
- ・オリジナル教材動画を活用したり、社会科と連携したりして、スマート農業や新潟市の農業の現状について理解を深めた。また、米以外の作物についても調べ、課題を探った。

② 持続可能な農業のため、「米の活用」について探求する

- ・調べ活動により、米は形を変えて、食されていることを学習する。米の消費拡大や食料自給率向上のためには米粉の活用が有効であることを知った。
- ・米の活用法の一例として米粉に着目し、アグリパークで、学校田で収穫した米を米粉にしてもらい、米粉と小麦粉を比較した調理実習を行った。

2 主な協力団体・協力者等

- ・JA新潟かがやき白根北アグリセンター様
- ・新潟市アグリパーク様
- ・学校田管理者様
- ・きゅうりハウス所有者様
- ・新潟市食と花の推進課
- ・地域ボランティアのみなさん



田植えの様子

3 成果

本単元を通して、児童は米作りを体験し、農業従事者の苦労や喜び、工夫を理解した。また、何より消費者のことを考えて、安全でおいしいお米を作りたいという思いが伝わった。ただ、昨今の高齢化や跡継ぎ問題で、米作りの担い手が減っている現状にもふれ、農業を盛り上げるために児童が、今できることを考え、問題に向き合った。また、米の消費拡大や生産拡大のために米粉の活用が有効であることや食料自給率の向上にもつながっていくことを学習し、米粉のよさを広げていきたいと意欲を高めることができた。スマート農業については、巨大なきゅうりハウスの設備を見たり、農家の方から直接話を聞いたりして、南区白根における持続可能な農業について考えを深めた。

(以下児童の学習の振り返り)

- ・きゅうりハウスでは、早朝から作業を行っていて、気温や湿度からスマートフォンを操作して、ハウス内の温度を管理することで、オートメーション化が図られていた。農作業の負担を軽減する工夫がたくさんあった。
- ・米粉を使った食品が増えると、小麦アレルギーの人も安心して食べることができる。R10プロジェクトでもっと米の消費量を増やしたい。
- ・日本は、米の消費量が世界で50位という結果を知り、もっとご飯を食べて、トップ5に入りたいと思った。

4 課題

単元の最初に講師を招き、新潟市の農業の現状や農家の方の苦労や工夫をうかがうことができて、児童が課題を設定する際に非常に有効であった。田植えは経験することができたが、収穫時期の稲刈り体験が諸事情により実施できなかった。子ども達は非常に残念がっていた。田植えや稲刈りなどの外での体験活動は、時期や気象条件、児童の健康状態に配慮して計画を立てる必要があると感じた。



きゅうりハウス見学



アグリパーク体験活動



米粉を使った調理

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	内野小学校	学年	第3学年 (121名)		
教科等	総合的な学習 (探究) の時間	関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさを守ろう		
単元名	内野の恵みを大発見！新たな内野ブランドへの挑戦！ (70時間)				
ねらい	内野の自然がもたらす恵みについて、一株一果で育てる ikka かぼちゃの栽培方法や自然を活かした生産者の工夫や努力を調べたり、地域と連携した活動を考えたりすることを通して、地域の自然や人々の魅力に気付くことができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】・内野や近隣の地域は、砂丘地の特徴を活かしながら、農業生産に取り組んでいることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の専門家の話や取組から、植物の育ち方の特徴に気付き、品質の良い農作物の栽培方法を身に付けている。 ・農業の専門家が作物を育てる工夫や努力、収穫した作物の魅力について理解している。 <p>【思・判・表】・地域の特徴を活かした農業生産に関心をもち、課題をつくり、解決への見通しをもっている。(課題の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に必要な情報を、手段を選択しながら集め、蓄積している。(情報の収集) ・課題解決に向けて、収集した情報を取捨選択したり、整理したりすることができる。(整理・分析) ・専門家等の意見を取り入れたり、収集した情報を活かしたりしながら、相手や目的に合わせて、分かりやすく表現している。(まとめ・表現) <p>【主体的に学習に取り組む態度】・課題解決に向け、自分や友達、関係する人の考えのよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。(自己理解・他者理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、友達や関係する人に意欲的にかかわり、共通点や相違点に気付き、折り合いをつけながら協働しようとしている。(主体性・協働性) ・地域の特徴や抱えている問題を知り、地域の特徴を活かした農業生産について考え、自分にできることに取り組もうとしている。(将来展望・社会参画) 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・内野の特産物を発表し合い、ikka かぼちゃを知る。 ・ikka かぼちゃについて調べる。 ・ikka かぼちゃを栽培している、すずまさ農園の堀さんから話を聞く。 ・ikka かぼちゃについて考える。 ・堀さんに教えてもらいながら、かぼちゃを通常と一株一果で育てる。 <p style="text-align: right;">(15時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃの追熟について調べる。 ・内野露店市のお客さんへのインタビュー活動を通して、ikka かぼちゃの流通について調べ、考える。 <p style="text-align: right;">(10時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・すずまさ農園のかぼちゃを観察し、違いを知る。 ・通常と一株一果で育てたかぼちゃを収穫し、食べ比べをする。 ・かぼちゃの栽培や追熟したことを振り返る。 ・振り返りを基に、改めてすずまさ農園の堀さんから話を聞く。 <p style="text-align: right;">(10時間)</p>	
専門家講師の派遣			専門家講師の派遣		
報酬費 堀様 5,000円			報酬費 堀様 5,000円 笹川聖陽様 5,000円		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・ikka かぼちゃの魅力伝えるため、地域の店の協力を得て ikka かぼちゃを使った商品を考えたり、ikka かぼちゃについて新聞やチラシ等にまとめたりする。 ・西区や内野の人に知ってもらうために内野駅と内野露店市で宣伝する。 ・さらに多くの人に、ikka かぼちゃや内野露店市について知ってもらう方法を考える。(例：ふるさと村での宣伝活動) (15時間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の他地域の農作物について調べ、区ごとにまとめる。(社会科と関連させて) ・区ごとの農作物のまとめを JA 職員に発表し、新潟市が抱える農業生産や農作物の流通の問題点を知る。 <p style="text-align: right;">(10時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市が抱える農業生産や農作物の流通の問題点から課題をつくり、課題解決に向けて取り組む。 ・課題解決の方法をまとめ、関係する人たちに提案する。 <p style="text-align: right;">(10時間)</p>	
専門家講師の派遣		専門家講師の派遣		学習成果の発信	
報酬費 キッチン店主中村剛様 5,000円 笹川聖陽様 5,000円		報酬費 JA職員 無償			



 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

学校名 内野小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

・ただ活動をする総合から子どもが思考し主体的に活動する総合への転換。思考力を付ける総合的な活動にできるよう、狙う資質能力といつどの人とかかわるか、を重視して単元計画を立てた。

・話を聞く、体験をする、街頭調査をもとに、子どもたちが課題設定を行った。

・自分たちだけで課題解決できない場面で、専門家と出会い、協力を仰いだ。

・単元1 すずまさ農園を真似て、一株一果でかぼちゃを育てたことで、農家の生産物への思いや努力を子どもなりに追体験した。また、すずまさ農園の ikka プレミアムと食べ比べをし、専門家のすごさを目の当たりにした。

・単元2 街頭調査の結果をもとに、展覧会で「知ってもらおう（ちらし配布・発表）」「食べてもらおう（商品販売）」チームに分かれて活動した。目的に合わせて、地域の専門家に協力していただいた。

・単元3 展覧会の活動でアンケートを取り、結果をもとに、校外（駅前・まちづくりセンター）での広報活動へつないだ。

2 主な協力団体・協力者等

・すずまさ農園 堀 美鈴 様

・2539kitchen 様

・パソコンなんでも相談所 笹川 聖陽 様

・まちづくりセンター 様



すずまさ農園さんからのお話



食べ比べ

3 成果

・すずまさ農園を真似て、一株一果でのかぼちゃ作りに挑戦した。害虫対策や摘心、収穫時期などについて話し合いを重ねて作ったため、農家の生産物への思いや努力について、自分たちの体験と結び付けて考えることができた。

（児童の振り返り）

・すずまさ農園さんもすごく苦労しているけどあきらめないでがんばっているんだな。すずまさ農園さんも最初は何も分からなかったけど失敗を重ねて頑張っているんだな。

・すずまさ農園さんも最初は僕たちみたいになったんだと思った。あったことを聞いていたら、僕も大人になったら農業をしたくなってきた。

・街頭調査の結果をもとに、展覧会で「知ってもらおう（ちらし配布・発表）」「食べてもらおう（商品販売）」チームに分かれて活動した。目的に合わせて、地域の専門家に協力していただいたことや地域の人へ広報活動をしたことで、販売し広めることの楽しさや嬉しさを感じ、目標達成の喜びを味わった。ものづくりに対する自己の考えを再構築した。

（児童の振り返り）

・イベントにいっぱい人が来てくれて嬉しかった。完売して嬉しかった。何より地域の人に ikka かぼちゃを食べてもらえて嬉しかったです。もっと広めたいです。

・ものを作ることはそう簡単には作れないと思います。だからいろんな人と協力していくことが大切です。これからは諦めず協力して、気持ちも込めてものを作りたいと思います。



街頭調査



説明



販売活動

4 課題

・連作障害対策で今年の春の畑がバスで行くことができない場所だったため、児童がかぼちゃを育てている時期に畑を見に行くことができなかった。見ることであれば、より一株一果の育て方について情報収集することができた。

・学年の人数が多いため、現地での活動がしにくい。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	黒埼南小学校	学年	第3学年（31名）		
教科等	総合的な学習（探究）の時間	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさを守ろう 17 パートナリーシップで目標を達成しよう		
単元名	未来へ輝く 黒埼の「茶豆・ブロッコリー栽培」（60時間）				
ねらい	新潟市の誇る農産物である茶豆や近年生産量を大幅に増やしているブロッコリーについて、地域の方との栽培活動や対話を通して、魅力や課題を見いだし、未来に向けた栽培のあり方を地域に提言し、自らもできることを実行することができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】・くろさき茶豆などのブランド品開発の努力や茶豆の魅力について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くろさき茶豆のブランドを確立するための工夫や、選別から外れた豆が廃棄されてしまうという課題からはねられた豆を活用する方法を見出す。 <p>【思・判・表】・黒埼地域やくろさき茶豆、ブロッコリー栽培についての関心をもとに、課題を設定し、解決のための見通しを持っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学体験やインターネットなど、様々な手段で必要な情報を集め、スタディ・ログとして蓄積している。 ・情報を整理し、茶豆の特徴や良さを見つけ出し、新たな可能性について考える。 ・茶豆やブロッコリーについての魅力をまとめ、これからの栽培のあり方や自分たちにてできることを表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・課題解決に向け、黒埼地域のよさだけでなく自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の中で自分と異なる考えのよさに気づき、協働しながら活動に取り組もうとしている。 ・未来の黒埼地域のために自分ができることを探し、実行しようとしている。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<p>・「新潟のおいしいもの」からくろさき茶豆やブロッコリーの存在に気づき、くろさき茶豆やブロッコリーについて知っていることや知りたいことを確かめる。</p> <p>・黒埼特産のくろさき茶豆について家族や地域の人から話を聞く。</p> <p style="text-align: right;">(5時間)</p>	<p>・JAの方から、茶豆やブロッコリーの栽培方法を学び、種まきから栽培活動を行い、スタディ・ログとしてまとめる。</p> <p>・茶豆やブロッコリー農家から、仕事やブランド品開発に対する喜びや工夫、困っていることについて話を聞き、GIブランドの条件を調べる。</p> <p style="text-align: right;">(15時間)</p>	<p>・茶豆と違いブロッコリーにはブランド力がないことを聞き、ブロッコリーのブランド力を上げるための方法を考える。</p> <p>・茶豆の魅力をより多くの人に広め、手に取ってもらえるにはどうするといいか考える。</p> <p style="text-align: right;">(5時間)</p>	<p>・収穫した茶豆を様々な人が集まる新潟駅で配付し、茶豆の魅力を広めるとともに、他の地域を知る。</p> <p>・はねられた豆が捨てられるという課題を知り、はね豆を有効活用できないか解決策を考える。(5時間)</p>		
専門家の情報提供		専門家講師の派遣		交通費の支援	
		報償費 サンクスファーム5,000円		使用料及び賃貸料 バス代38,500円	
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>・JAの方や地域の農家の方から、黒埼茶豆のはね豆の活用方法や、ブロッコリーのブランド品開発について話を聞く。</p> <p>・はね豆を活用した商品を販売している人と出会い、はね豆を活用した商品のアイデアを考えるなど、はね豆の活用の企画に参画する。</p> <p style="text-align: right;">(10時間)</p>	<p>・くろさき茶豆を使ったスイーツメニューを考え、地域の菓子店とコラボして試作・試食をする。</p> <p style="text-align: right;">(10時間)</p>	<p>・これまでの学習から茶豆やブロッコリーの魅力や自分たちで考えた新たな可能性をまとめる。</p> <p>・自分たちの取組やこれからの茶豆やブロッコリー栽培のあり方への提言についてまとめたものを、学習発表会で保護者や地域の人に伝える。(10時間)</p>			
専門家の情報提供		専門家講師の派遣		学習成果の発信	
ごっつおストア永井さん 無償					



 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

学校名 黒埼南小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・従来は体験活動や学習材料はあるが、探究的な授業デザイン作りに課題があった。本単元では、昨年度 JA 青年部の方から教えていただいた規格外の豆の「はね豆」に着目し、選別の際に捨てられている豆を活用することで無駄なく使えるようにする視点を取り入れた。
- ・はね豆の活用方法を考える活動を行うために、実際にはね豆を使った商品開発に取り組んでいる GOZZO STORE の永井克幸様に来ていただき、はね豆の特徴やはね豆を使った商品を教えてもらい、一緒に活用アイデアを考えることで食品ロスについて考えられるようにした。
- ・ブロッコリーを栽培した畑で茶豆を栽培することをサンクスファームの方に教えてもらい、ブロッコリー栽培を行うことで茶豆の理解を深められるようにした。

2 主な協力団体・協力者等

- ・JA にいがたかがやき青年部 様
- ・サンクスファーム 大岩和正 様
- ・GOZZO STORE 永井克幸 様



講師による講演

3 成果

- ・はね豆に対する課題意識をもって活動を行ったことで、食べ物を大切にしようという意識が高まった。
- ・見た目が影響しないようなはね豆の工夫した使い方を考えていた。
- ・振り返りの中で、ブロッコリーと茶豆を一緒に畑で育てると相性がいいことから、茶豆を作るときにも同じ畑を活用できる良さに気付いていた。
- ・「はね豆は工夫次第でとてもいい料理になることを広めたい」とはね豆のよさについても伝えたいと意欲を高めていた。
- ・JA 青年部の方に協力してもらって栽培した茶豆を新潟県内外の人が集まる新潟駅で配付したことで、より多くの人に茶豆の魅力を知ってもらえたという充実感を得た。



講師による講演



農家との体験活動



はね豆を活用した商品のプレゼンテーション

4 課題

- ・子どもたちがはね豆のもつ問題の解決策として商品開発を考えた際、実際にそれを試す時間がなかった。
- ・はね豆の問題に対して、はね豆を活用という形で自分たちにできることを考えて形にする時間を増やすために、ブロッコリー栽培の時間をはね豆の活用した商品アイデアを考える時間や商品開発の時間に充てて、自分たちで考えたことを実際に試す時間を確保する。



考案したレシピ

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	岩室小学校	学年	第5学年（17名）
教科等	総合的な学習（探究）の時間	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに
単元名	総合 お米を育てよう（36時間） 総合 さつまいも栽培活動（4時間）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作について、地域伝統の米づくり体験とお弁当メニューを考える活動を通して、地域の農業と食文化への関心を育み、地域の伝統と食べ物を大切にしようとする意欲を育てる。 ・さつまいもについて、縦割り班での栽培と収穫の活動を通して、協力して農作物を育てる良さとサツマイモの育て方について理解する。 		
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識) 岩室の伝統的な稲作の方法を知るとともに、その伝統を地域で守ろうとしていることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自在に活用する技能) 考えたメニューの良さを相手に適切に伝える。 ・(探究的な学習のよさの理解) 地域の農産物の良さを商品化することは、地域の特徴や良さを伝えることだと気付いている。 <p>【思・判・表】・(課題の設定) お弁当のメニューや販売のために、何をポイントにして活動するかの見通しももって活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(情報の収集) お弁当メニューの考案のための栄養バランスや農作物の特徴、作りやすく人気のあるメニューを調べている。 ・(整理・分析) 考えたお弁当メニューや販売の方法が「実現可能か」「効果的か」の視点で考えている。 ・(まとめ・表現) オリジナル弁当の良さをプレゼンテーションすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 地域の米づくりに関わる農家の人の思いを理解しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(主体性・協働性) お弁当のアイデアの比較からより良いものにしていく。 ・(将来展望・社会参画) メニューづくりや販売活動に、自他の考えの良さを生かし、協力して取り組んでいる。 		
4月	5月	6月	7月
8月	9月		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもの苗植え ・昔ながらの稲作法での田植え <p style="text-align: right;">(4時間)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・さつまいも栽培の世話 (時期を見て草取り等を行う) <p style="text-align: right;">(2時間)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの方法で稲刈りやはざ木かけをしてお米を収穫する。 <p style="text-align: right;">(3時間)</p> </div>	
専門家の情報提供		交通費の支援	
報償費 田んぼ 山崎敏之さん 10,400円 (5,200円×2回) 田植え・稲刈り指導 川崎 清さん 10,400円 (5,200円×2回) 田植え・稲刈り指導補助		使用料及び賃貸料 バス代 16,896円 (田植え) 20,008円 (稲刈り)	
10月	11月	12月	1月
2月	3月		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもの収穫 ・収穫したお米を保護者に販売を行う。 ・弁当献立について栄養のバランスを学ぶ。 ・お米とさつまいもを活用したオリジナル弁当を考える。 ・阿部商店さんにプレゼンテーションし、商品化を目指す。 <p style="text-align: right;">(12時間)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル弁当を試食し、販売の計画と役割分担をする。 ・お弁当の良さを生かした販売計画のアピールを行う。 ・保護者向けのお弁当販売を行う。 ・「いわむろや」でお弁当販売を行う。 ・関係の方へお礼状を書く。 <p style="text-align: right;">(19時間)</p> </div>		
専門家の講師の派遣		交通費の支援	
報償費 阿部禎子さん 5,200円 弁当メニュー助言・指導		使用料及び賃貸料 バス代 17,896円 (いわむろや往復)	



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 岩室小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

・地域にある観光資源である「ハザ木のある田んぼ」を活用した、伝統的な稲作づくりを児童が体験するために、地域自治会（新潟市西蒲区夏井地区）と、「岩室JAかがやき」からご協力いただいた。稲作体験だけではなく、地域の観光資源を知ること、稲作に関わる人の思いに触れることを大切に体験学習を展開した。



田植えの説明を聞く

・地域の田んぼで育てたお米（ハザ掛け米）を活用したお弁当をつくるために、給食センターの栄養教諭より食事メニューの栄養について学び、お米の良さをアピールする視点も取り入れてお弁当メニューを考えた。その後、和納地区の阿部商店様を講師として招き、児童の考案したお弁当メニューをプレゼンテーションした。

・地元観光施設「いわむろや」で考案したお弁当を販売する活動を行った。実際に買ってくれる人の反応も確認し、食べ物を提供することに対し、考えをまとめた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・夏井自治会長 川崎 清 様
- ・夏井農家組合長 山崎 敏之 様
- ・巻給食センター 栄養教諭 室本 京子 様
- ・岩室JA かがやき 様
- ・阿部商店社長 阿部 禎子 様
- ・岩室観光施設 いわむろや 様



田植えに挑戦

3 成果

・地域の観光資源である「ハザ木のある田んぼ」での田植え、稲刈り体験は、児童にとって稲作の理解を促進するだけでなく、地域の自然や産業への愛情を培うきっかけ

けとなった。

・田植え、稲刈りともに地域自治会から多くの方が児童の支援に駆けつけてくださった。稲の植え方や刈り方、稲のまとめ方等を丁寧に教えて下さり、児童が最後まで熱心に作業することができた。児童にとって地域の方への感謝の気持ちを抱く体験になった。



稲刈り

「児童の振り返り」から

・稲刈りの後に夏井のハザ木に稲を干す体験をしました。高いところに干すには梯子に上って力を入れて稲を持ち上げるのが大変でしたが、良い経験になりました。

・お弁当に入れるものはみんなで話し合いをして、悩んで決めました。阿部商店さんの前でプレゼンテーションをするのは緊張したけれど、みんなでやって楽しかったです。



稲をハザ木に掛ける



完成したお弁当

4 課題

・児童の考案したお弁当の販売活動を「学習参観日」「いわむろやでの販売日」の2回実施したが、準備が大変なので、次年度は1回にまとめて行う。

・田植え、稲刈りの指導に、夏井自治会がJA かがやき様に講師を依頼してくださったので、最初から学校とJA かがやきの協力体制を整えておく。

・お弁当の販売活動をマスコミに取材要請したが、取材が入らなかった。マスコミへのプレスリリースは継続して実施する。



令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	中之口東小学校	学年	第5学年（18名）
教科等	総合的な学習（探究）の時間	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに
単元名	おいしさいっぱい 中之口（70時間）		
評価規準	<p>【知識・技能】・（概念的な知識） 米や米粉、これからの食糧自給の課題について知り、様々な人が連携して課題解決に取り組んでいることや自分たちにも関係していることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（自在に活用する技能） 農家や関係機関、学校等へのインタビューによる調査を、相手や場面に応じた適切さで実施している。 ・（探究的な学習のよさの理解） 地域の農業に対する自らの認識の高まりは、他地域や関係機関など、多面的に探究してきたことの成果であることに気付いている。 <p>【思・判・表】・（課題の設定） 米の消費量を上げる方法について、自分なりの課題を設定するとともに、解決に必要な方法を明確にしながら活動の計画を立てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（情報の収集） 調査や体験、農家の方からお話を聞きながら、問題解決に必要な情報に応じて質問の内容や方法を考え、尋ねている。 ・（整理・分析） 地域の農業のよさを伝えたり、農業の継続・発展への取組に参画したりする中で、「実現可能な取組か」「意味があるのか」「有効な内容か」等の視点から、取組の根拠を見出している。 ・（まとめ・表現） 活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして学びについて発表したり、冊子にまとめたりして表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解） 他地域の農家や関係機関からお話を聞き、異なる方法や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（主体性・協働性） 地域または他地域の栽培農家や関係機関等からお話を聞き、自分たちができることを計画、実施するに当たって、伝える相手を意識して対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ・（将来展望・社会参画） 計画、実施しようとする内容を成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。 		
4月	5月	6月	7月
8月	9月		
<p>【ぼじめてみよう！中之口の米作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えをするまでの苗の成長について学び、米作りについて関心を高める。 ・田植えをする。 ・社会と総合で教科横断的な学びの中で、米作りの課題について学ぶ。 	<p>【調べてみよう！中之口の米作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒酢散布やスマート農業について、上学年と交流して学ぶ。 ・稲の観察をする。水の管理をする。 ・黒酢作りをして、散布する。（計2回） ・農家さんの様々な工夫や苦労を調べたり、直接聞いたりして、農家という仕事について学ぶ。 	<p>【考えてみよう！中之口米の消費拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田んぼの観察をする。 ・稲刈りをする。 ・米粉の活用の有効性について学び、専門家（パン屋さん）の話を聞く。 	
10月	11月	12月	1月
2月	3月		
<p>【調べてみよう！米のよさと未来】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲刈りをする。 ・農家さんへのインタビューをふまえ、農家さんの取り組みや自分たちで調べた消費拡大のアイデアについてまとめる。（パン屋さんとの協力） →米粉を使った商品を作ることの計画 	<p>【まとめてみよう！中之口の米作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉を使った商品の販売をする。 ・米粉の活用を呼びかける発表会を企画する。 →発表会に向けて、ICTを活用した調べ学習やインタビュー活動を通して、自分ができる方策を調べ、まとめる。 	<p>【発信しよう！中之口の米作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な農業のため、米粉の活用を呼びかける資料を準備し、私たちができる米作りを考える発表会を開き、保護者や地域の方に聞いてもらう。 	
交通費の支援		専門家講師の派遣	学習成果の発信
日帰交通費① アグリパーク バス代 40,000 円（1学級）		報償費 パン屋 5,000 円	日帰交通費② 銀の麦 バス代 15,784 円（1学級）



 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

学校名 中之口東小学校

1 本単元作成のポイント、留意点

中之口東小学校の5年生は、総合的な学習の時間に「おいしさいっぱい 中之口」を題材に学習を進めている。従来は、田植えや稲刈りを体験しながら中之口の米栽培について学んできた。今回は、SDGsの視点（目標2「飢餓をゼロに」（食糧安全保障、持続可能な農業））を加えて、以下のことに留意して活動した。

① 米栽培に携わる人の思いや工夫を知り、農業にかかわる児童の気持ちを醸成する。

児童にとって、米栽培は身近な農業である一方で、栽培の様子や工夫、生産者の思いについては知らない児童が多い。持続可能な農業を目指す上で、農業の現状や生産者の思いを知ることがSDGsの取組への重要性や農業の課題が見えるものと考えた。

② 持続可能な農業を考えるため、アグリパークや近隣のパン屋から学ぶ

アグリパークでは、米粉と小麦粉の比較から、米粉の良さを学ぶとともに、R10プロジェクトについても学び、農業の抱える課題や取組について明確にした。米の活用について関心をもち、米粉を活用したパンを作りたいという思いにつながった。燕市のパン工房「銀の麦」の店長より、米粉パンを考案するためのポイントを教えていただいた。また、米をライスバーガーとして活用できることも体験した。考案したパンを販売し、地域の方から購入していただくことで、米の活用を伝えるとともに、生産・販売の喜びについても実感することができた。

③ 生産者の思いや取組を学び、自分たちのできることを考える

農業が抱える課題を知り、持続可能な農業へのSDGsの取組の重要性や、自分たちのできることを考えた。この学びを学習発表会で全校に伝えた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・地域の農家様 【苗のビニールハウス見学，黒酢散布】
 - ・JA 中之口様 【田植え，稲刈り，はぎ掛け指導】
 - ・マールさんの石窯パン工房「銀の麦」様
- 【ライスバーガー作り，米粉パンにかかわる講話，米粉パン販売に向けた取組】



パン屋さんからの講話

3 成果

- ① 児童は、米作りを体験しながら、苗の管理、田植え、稲の世話、黒酢散布、稲刈り、はぎ掛けなど、大変な作業が多い中で、生産者の人たちは愛情を込めて米作りをしていることを知り、毎日当たり前で食べている米を大切にしていきたいとの心情を高めた。
- ② 社会科との教科横断的な学びや、アグリパークでの学習から、日本の食料自給率の低さや米の消費量が減っていることを知った。児童は米粉の活用の仕方を主体的に調べたり、自分たちにできることを話し合ったりしながら自分事として考えていた。米の消費拡大に向け、パン屋さんの協力のもと、米粉パンを考案し販売した。
- ③ 専門家から話を聞いたり販売体験をしたりする中で、多くの人に地域の米のおいしさや米の良さについて知らせたいという思いを高めていった。
- ④ 持続可能な農業に対する取組への理解を深め、学習発表会で全校にその思いを伝えることができた。



はぎ掛け体験



米粉パン販売



学習発表会

4 課題

- ・およそ8か月間で、様々な体験を通して学習活動を進めてきた。総合的な学習の時間だけでの運用は厳しく、より深い学びにできるよう苦心した。
- ・地域の方や、地域教育コーディネーターから多くの支援を受けながら児童の関心やSDGsに関わる取組への心情を高めることができたが、計画と適時な活動の実現が難しかった。
- ・農業の6次産業化体験をしたことをさらに探究し、商品開発が地域の活性化につながるなど、これからの社会にも深く関わっていることに結び付けられるとよかった。



考案したパン

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	中之口西小学校	学年	第5学年（19名）
教科等	総合的な学習（探究）の時間	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 15 陸の豊かさも守ろう
単元名	大好きにいがた体験 「米にコメろ！中之口！～農業に託す思い～」（60時間）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・今と昔の農業方法を学び、大変さと便利さを実感する。 ・自分たちが育てた、「にじのきらめき」の良さを調べ、販売活動で知らせる。 ・体験したことや調べたことを中間発表やまとめ発表で、多くの人に伝える。 		
評価規準	<p>【知識・技能】 ・これからの米作りが抱えている問題を知るとともに、様々な人々が連携して課題解決に取り組んでいることや自分たちの生活にも関係していることを理解している。</p> <p>【思・判・表】 ・稲作体験を通して、米作りの工夫や苦勞、食べ物の大切さを考えることができる。</p> <p>・最新の農業技術を学ぶとともに、自分たちが育てた品種の特徴を調べたり伝えたりすることができる。</p> <p>・相手に合わせて伝える方法を選び、分かりやすくまとめて伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・農家の方の困りごとを知り、自分にできることを考え行動する。</p>		
4 月	5 月	6 月	7 月
<p>【稲作や稲作に関わる問題を知ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で盛んな稲作について調べ、興味・関心を高める。 ・JA の方から、育苗ハウスのような田おこしの仕方を教えていただいたり見学させていただいたりする。 ・JA新潟かがやきの方や地域の農家の方から指導していただき、田植え体験をする。（15時間） 		<p>【最新の農業技術を知ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田干し作業のようすやドローンによる肥料まきの様子を見学する。 ・最新の農業技術を調べる。（15時間） 	
		8 月	9 月
		<p>【収穫を祝おう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが育てている「にじのきらめき」とコシヒカリ、新之助のメリット、デメリットを調べる。（JA の方から教えていただく） ・稲刈り、はざかけ体験をする。（中之口東小と合同） ・コンバインによる稲刈り見学（10時間） 	
専門家の情報提供		専門家講師の派遣	
		交通費の支援	
<p>報償費</p> <p>講師 10,000 円 (5,000×2 回)</p> <p>(JA 新潟かがやきの方)</p>		<p>使用料及び賃貸料 中之口東小へ</p> <p>バス代 15,784 円 (支援額 15,784 円)</p> <p>報償費 講師 5,000 円 (5,000×1 回)</p> <p>(JA 新潟かがやきの方)</p>	
10 月	11 月	12 月	1 月
<p>【中間発表をしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践の成果と反省を全体で話し合い、まとめる（新聞、パワポ、レポートなど）。 ・JA の方に報告する。 ・発表の形態を工夫し、相手に分かりやすく伝える。（5時間） 		<p>【困りごとを解決しよう②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表を基に、具体的な達成基準を決めて計画を立て、もう一度解決に向けて実践を行う。 ・図書室やインターネットを活用する。 ・米粉を活用している事例を調べ、自分たちの作った米を一部米粉にする。（15時間） 	
		<p>【最終発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうすればお米に対して興味をもってもらえるか考える。 ・米に自分たちでブランド名をつけて、万代シテイなど人が集まる場所で配付する。その際、米や SDGs について調べたことをまとめたチラシや新聞なども一緒に配る。 ・調べた結果や活動して感じたことなどを、全校に向けて発信する。 ・収益金の寄付先を決める。（15時間） 	
交通費の支援		学習成果の発信 交通費の支援	
<p>使用料及び賃貸料</p> <p>アグリパークバス代 20,008 円 (支援額 20,008 円)</p>		<p>使用料及び賃貸料</p> <p>万代シテイ バス代 17,896 円 (支援額 17,896 円)</p>	

学校名 中之口西小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- 育苗ハウスや代かきの様子を見学した。
- 田植えのために「枠」を使って線を引き、手植え作業をした。
- ドローンを使用した肥料まき作業の様子を見学した。
- 溝切作業の様子を見学した。
- お米の品種ごとの違いについて講演していただいた。
- 中之口東小学校と一緒に稲刈り体験とはざかけ体験を行った。
- コンバインによる稲刈りの見学を行った。
- 50周年式典で、これまでの活動と取り組みの様子を発表した。
- アグリパークにて、米粉体験を行った。
- お米販売について、食と花の推進課に尋ね、表示や収益の使い道について教えていただいた。
- 万代シティにて、「にじのきらめき」のPR活動と販売活動を行った。
 - ・教師側も知らないことが多く、活動を行うことでわかったことを生かしながら、活動内容の見直しを随時行っていった。

2 主な協力団体・協力者等

- JA新潟かがやき中之口アグリセンター 大橋 凌 様
- 羽黒あぐり 様



お米の品種ごとの違いについて講演

3 成果

- ・最新の農業（稲作）について知ることができた。
- ・昔ながらの農業は、時間や体力が必要でとても大変だったということが分かった。
- ・中之口東小と合同ではざかけ体験まですることができ、農業の大変さをより知ることができた。
- ・50周年式典の発表に向け、どんな内容にするかを考えたり、堂々と発表したりすることができた。
- ・「にじのきらめき」を「コシヒカリ」「新之助」と比べながら、どんな特徴や良さがあるのかを知ることができた。
- ・「にじのきらめき」をPRしながら、販売活動を行うことができた。



田植え



ドローンによる肥料まき



にじのきらめき PR と販売活動



50周年式典での発表



はざかけ体験

4 課題

- ・教師にとってもそうだが、児童にとっても知らないこと、体験したことがないことが多く、全体像をつかませることが難しかった。（最新のものを見せても、何が便利になったのか理解させるのに困った）
- ・それぞれの活動ごとに振り返りの新聞を書かせていたが、意見交流を行う場を設定できずに次の活動に入ってしまった。
- ・お米販売の時期は11月に中間発表があったため1月になったが、新米シーズンの11月や12月にすると良かった。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	南浜中学校		学年	第1学年(12名)	
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任	
単元名	南浜サツマイモプロジェクト (SP) (40時間)				
ねらい	農業の6次産業化について、サツマイモの栽培や考えた商品を企業に売り込む活動を通して、「相手も自分たちも喜ぶ」商品や販売の工夫を考え、課題を主体的に解決できる				
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識)「相手も自分たちも喜ぶ」販売をするには、人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であると理解することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自在に活用する技能) 開発した商品を企業にコラボしていただくため、相手や場面に応じてわかりやすくプレゼンすることができる ・(探究的な学習のよさの理解) 農業の6次産業化体験で、探究し続けることにより、商品のブランド化が地域の活性化につながるなど、これからの社会にも深く関わっていることに気付いている <p>【思・判・表】・(課題の設定) 開発した商品を企業にコラボしていただくための提案書作成や、商品売るための工夫を、見通しをもって計画している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(情報の収集) 課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して収集している ・(整理・分析) 収集した情報や、アドバイスしていただいたことを基に、商品や販売方法を決定している ・(まとめ・表現) 商品開発の過程や販売方法を整理分析し、「相手も自分たちも喜ぶ」販売ができたか振り返っている <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 課題解決に向け、自分の特徴やよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(主体性・協働性) 自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとしている ・(将来展望・社会参画) 農業の6次産業体験を通して、これからの社会を視野に入れ、自分にできることを見つけようとしている 				
	4月	5月	6月	7月	
	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリパーク研修で、農業(耕起・畝作り)体験を行う。(貸し切りバス利用) ・サツマイモについて調べ学習を行う。 ・6次産業化について図書・動画を使って調べ学習を行う。または講話をいただく(講師依頼) <p>(8時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな種類のサツマイモを植えるか決定する ・地域の方から畑を借りて、作り方を教わりながら畝作りを行う。 ・地域の方に教えていただきながら、苗植えを行う。 ・サツマイモの栄養価・商品開発について講話を頂く。(講師依頼) <p>(5時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「売る人も作る人も買う人も喜ぶ」販売をするにはどうしたらよいか考え、商品開発を行う。 ・商品開発プランの中間発表を行い、アドバイスをいただく。(講師依頼) ・サツマイモを使った商品を、コラボしていただくための提案書を作成する。 <p>(8時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモを使った商品を企業にプレゼン(売り込み)し、コラボしていただく企業を決定する。 <p>(4時間)</p>	
交通費の支援	専門家講師の派遣		コラボ企業情報提供		
使用料及び賃貸料	報償費				
バス代 40,000円(1学級)	6次産業化専門家 14,600円				
8月	9月	10月	11月		
	<ul style="list-style-type: none"> ・松風祭(文化祭)で商品売るための工夫を考える。 ・宣伝計画、チラシ、看板、販売の準備を行う <p>(4時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に教えていただきながら、サツマイモを収穫する。 ・収穫したサツマイモを分類する。 ・松風祭(文化祭)で商品売るための準備をする。 ・宣伝やプレゼンテーションの準備をする <p>(6時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心を込めて、松風祭(文化祭)でコラボ商品・焼き芋を販売する ・振り返りを行う <p>(5時間)</p>		
学習成果の発信					



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

学校名 南浜中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

～「相手も自分も喜ぶ販売」を、文化祭で行うために～

- ・6次産業を行っている人を講師に招き、6次産業の取組について講話をいただき、これから行う活動のイメージを広げた。
- ・地域の方から畑をお借りして、サツマイモの栽培から収穫まで、方法を教わりながら「島見産サツマイモ」を育てた。
- ・サツマイモの栄養価について、講師を招き講話していただいた。講話を参考にして、SDGsを考慮した商品開発を行い、企業にプレゼンし、商品を決めた。
- ・3つの班に分かれ、自分の特性を活かし最後まで協力して活動し、働きがいと得られるよう配慮した。
- ・北区文化会館館長さんから「アナウンス講習会」をしていただき、当日の販売の仕方や声の出し方について考えた。
- ・地域の方にチラシを配り、活動を発信し、地域で学んだことを地域に還元する活動にした。



苗植え

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟市アグリパーク 様
- ・株式会社 農プロデュース リッツ 代表取締役 新谷 梨恵子 様
- ・玉井 孝一 様 (畑の所有者、サツマイモ栽培師匠、焼き芋調理講師)
- ・鈴木 慎一 様 (焼き芋調理講師)
- ・新潟医療福祉大学 健康科学部 片山 直幸 様
- ・菓子工房ボンクール・SAITO 店長 齋藤 昌義 様
- ・はまばん 店長 田中 優妃 様
- ・北区文化会館 館長 高坂 元己 様

3 成果（生徒の振り返り）

- ・サツマイモを育てる上で、作物を作る大切さを実感できた。
- ・商品の材料を作るところから売るところまで自分たちですることによって、商品販売の大変さを理解できた。
- ・一つの商品を作るのには、こんなにも時間がかかり大変なのだと実感した。
- ・商品を開発するとき、作ってくれる人、買ってくれる人の気持ちを考えることが大切だとわかった。
<例えば…>
○売れ残りそうな時、どのように動けばよいのかを学ぶことができた → 割引のやり方を学んだ。
○小さい子からお年寄りの方まで幅広い年代の方に見てもらえるよう、文字の大きさや看板を貼る位置を工夫した。
○接客の時、相手が聞きやすいスピードで話をする、てきぱきと周りをよく見て動くことが大切だと思った。
- ・地域の方々の協力がなかったらできなかった。
- ・班の人と話し合い、みんなが協力して作業して助かったし、すごく楽しかった。
- ・自分で考えて行動すること、協力することの大切さを学んだ。

4 課題

- ・活動自体の時間の確保が難しかった。また、SDGsの視点からの振り返りをする時間も不十分だった。
- ・1年生での実施だったが、2、3年生で行う総合学習(地域の課題を見つけ、地域活性化活動を行う)につながるような「気づき」がある活動にしていきたい。



収穫



企業にプレゼン



商品販売(焼き芋)



商品販売(スコーン)



販売商品のチラシ

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	小新中学校	学年	第2学年（108名）
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	8. 働きがいも経済成長も
単元名	前期：小新ハローワーク（私たちが、よりよく生きるために取り組んでいきたい仕事） 後期：小新ジャーニー（新潟の過去・現在を知り、未来を語り合おう）		
ねらい	職業（キャリア）や地域（新潟）について、ロボットやテクノロジーの視点を加えながら探究することで未来を見通し、持続可能な生き方を考える。		
評価規準	【知識・技能】 探究的な学習の過程において、職業や地域に関する課題解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。		
	【思・判・表】 職業や地域について、実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。		
	【主体的に学習に取り組む態度】 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。		

第1学年（これまでの学習）「未来も（経済）」「まわりも（環境）」「みんなも（社会）」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
GIGA 開き			小新レスキュー（防災）			小新ウェルフェア（福祉）			小新ハローワーク（職業）		
リエンション	課題設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・発表	振り返り	課題設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・発表	リエンション	情報収集
・iPad のマナーとモラルに基づく使用方法について確認する。	・総合的な学習の時間で身に付けたい力ってなんだろう。 ・日常生活で地震が発生したら、どのように避難したらいいだろう。	・災害時、通学路や自宅周辺には、どんな危険が潜んでいるだろう。 ・防災士による授業①～④	・防災士による授業⑤～⑥ ・長期休業中の個人探究について、説明。	・個人探究「防災について、大切な家族に伝えたいこと」 ・防災と教科を関連付けて探究し、その成果を家族の前で発表する。	・夏休みの探究成果を修正し、提出。 ・はがき新聞による探究の価値づけ。 ・自己成長力アンケート①	・後期「小新ウェルフェア」とは… ・道徳「私が働く理由」で、総合学習と教科横断。	・道徳「エルマおばあさんからの最後の贈りもの」 ・講演会「先端技術と福祉」 ・講演会「済生会新潟病院」	・講演会「地域包括支援センター」 ・長期休業中の個人探究について説明。	・個人探究「福祉について、大切な家族に伝えたいこと」 ・福祉と教科を関連付けて探究し、その成果を家族や友達の前で発表する。	・はがき新聞による探究の価値づけ。振り返り。 ・講演会「介護に携わる仕事」 ・福祉から、職業の学習へと移行。	・10年後に、あなたはどんな職業に就き、どんな生活をしているか、想像してみよう。 ・長期休業中の個人探究について説明。

第2学年（今年度の学習）「未来も（経済）」「まわりも（環境）」「みんなも（社会）」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
GIGA 開き			小新ハローワーク（職業）			小新ジャーニー（地域）					
課題設定	情報の収集	情報の収集	整理・分析	まとめ・発表	振り返り/課題設定	課題設定	情報の収集	整理・分析	まとめ	発表	振り返り
・iPad のマナーとモラルに基づく使用方法について確認する。	・16日：生き方講演会「メタバースの地域活用（リプロネクスト）」	・地元経営者による講演会 ・職業体験1日目 ・水耕栽培	・職業体験2日目 ・職業体験3日目 ・長期休業中の個人探究について説明。 ・水耕栽培	・個人探究「就職に先駆け、身に付けておくべき知識とは!？」	・夏休みの探究成果を修正し、提出。 ・はがき新聞による探究の価値づけ。 ・自己成長力アンケート①	【地域学習】 ・道徳授業をきっかけに、新潟市の特徴や良さについて、考える。 ・弁当作り	講演会 ・新潟を支える農業。 ・農業とテクノロジー。 ・調理実習	・3日に修学旅行（三条・燕・長岡）。農業工場を見学する。 ・未来の新潟「食・農」物語の執筆。	・家族に披露した探究成果を友達にも伝えよう。 ・新潟のこれからを考えよう！	・「Koshin 若者会議2026」～新潟の未来を語り合おう～ ・「小新ポジウム」で情報発信！	・食と農のいきいき SDGs 学習で学んだことを「はがき新聞」にまとめよう。

植物工場や専門家の情報提供

専門家講師の派遣

学習成果の発信・専門家講師の派遣

【補足】「持続可能な社会の実現に向けて、テクノロジーをどのように活用できるか」というテーマで、学習を関連付け、ストーリー性を持たせる。冬休みに行く、未来の新潟「食・農」物語の執筆を目指して、SDGs 学習や講演会、工場見学を実施する。生徒には学習のオリエンテーションで、12月の物語の執筆や、その後の若者会議・シンポジウムの計画を事前に話し、見通しを持たせる。生徒の関心に応じた農作物を選択させ、新潟市の未来像を想像させ、その成果を持ち寄って会議を開催するなどして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

報償費 ウォーターセル株式会社 9,000円（支援額7,600円）	報償費 株式会社 総合フードサービス 7,600円（支援額7,600円）
--	---



 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 小新中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・職業講話や職場体験では「働くことの意味」を探るとともに、各職場で行われている SDGs に関連する取組についても学ぶ。

訪問先での取組内容を聞き取り、その情報を生徒同士で共有することで SDGs への理解を深め、社会貢献の意識を高めることを目指す。

- ・食と農を総合的な学習の時間のみならず教科横断的に学ぶ。

技術科の水耕栽培実習、家庭科の調理実習、美術科のポスター制作（フードロス削減）、給食の場面を通じて、食や農に関する理解を深める。このような取組によって、既存の学習の価値や意味を再認識する。

- ・協働的な学びの充実を図る。

講演会を2回実施し、修学旅行では農業関連施設の見学を行う。先端技術を用いた、30年後の未来の姿のアイデアを持ち寄り、シンポジウムを開催。

本単元の実施に関わり、小新中学校における総合的な学習の時間の系統性を維持すること、これまで培ってきた実践の蓄積を活用し、関連する内容を扱う他教科と横断的に学習効果を高めることに留意する。

2 主な協力団体・協力者等

- ・ウォーターセル株式会社 様

- ・株式会社総合フードサービス 様



ウォーターセル株式会社様講演会



株式会社総合フードサービス様講演会

3 成果

- ・ウォーターセル株式会社様より、「スマート農業で職や農業はどう変わる？」というテーマで講演をしていただいた。同社は、前年度に講演いただいた、株式会社米八様が使用している、水田管理のアプリケーションを開発している企業である。

- ・株式会社総合フードサービス様より、「食の仕事が繋ぐもの」というテーマで講演をしていただいた。同社は当校の給食を提供する業者であり、食材の産地や残食状況など、生徒たちに直接関わる内容についてお話しいただいた。

- ・修学旅行では水耕栽培や農業機械など、先端技術を活用した生産システムや製造所を見学し、生産者からもお話を聞くことができた。

- ・食と農のわくわく SDGs 学習を振り返る活動として、30年後の未来について提言を、シンポジウム形式の「小新ポジウム」で発表した。

4 課題

- ・各活動が年間計画の中でどこに位置しているのかを意識し、学びのつながりを明確にする仕組みを取り入れる必要がある。各活動の前後で全体の流れを確認する場を設けることや、シンポジウムの振り返りの際に各活動のつながりを整理する。

- ・取組を次年度の担当者に引き継ぎ、学びの一貫性を意識した計画づくりを進めることで、より効果的な学習を継続する。



小新ポジウムの様子

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	新潟青陵高等学校	学年	第1学年 (30名) ※バーチャル市役所「食と農」希望者		
教科等	総合的な学習 (探究) の時間	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 12 つくる責任 つかう責任		
単元名	オリジナルの笹団子づくり／青陵米プロジェクト (70時間) 金曜日5, 6限				
ねらい	新潟県 (市) の「食」と「農」の現状や課題について調査したり、米や特産品の生産から加工、販売までを体験したりすることを通して、課題を設定しその解決に取り組むことができる。 また、高校生が主体となって地域と共に活動し、協働する中で自己肯定感、自己有用感の伸長を実感できる。				
評価規準	<p>【知識・技能】・新潟県 (市) の米や特産品に関する現状や課題を理解している。(概念的な知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食と農に関連する調査結果を、目的に応じた適切な手段で収集している。(自在に活用する技能) ・探究学習の進め方を他教科の学習にも生かしている。(探究的な学習のよさの理解) <p>【思・判・表】・新潟県 (市) の米や特産品に関する課題への関心をもとに、問いを設定し、解決の見通しをもっている。(課題の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に必要な有効な情報を、多様な手段を用いて収集している。(情報の収集) ・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し、その解釈に有用な論拠を示している。(整理・分析) ・情報と論拠をもとに、課題の解決策を論理的に表現している。(まとめ・表現) <p>【主体的に学習に取り組む態度】・自分の意思で課題に向き合い、課題解決に取り組む姿勢を振り返り、自己の在り方を考えようとしている。(自己理解・他者理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とは異なる見方や考え方を生かしながら建設的に議論しようとしている。(主体性・協働性) ・課題を自分ごととして認識し、何ができるのかを考え、社会に貢献しようとしている。(将来展望・社会参画) 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習オリエンテーション ・ソーシャルスキル ・SDGs 学習 (年間を通じてインプット) ・図書館オリエンテーション ・[交通費①] 田植え: 5月下旬 (※有志) そら野テラス (フジタファームグループ) →中止 			<ul style="list-style-type: none"> ・[交通費②] 笹団子作りレクチャー (専門学校えぶろん) ・[交通費③] 稲刈り (有志) そら野テラス (フジタファームグループ) 		
交通費の支援①			交通費の支援②		交通費の支援③
バス代 (中止のため支援なし)				バス代 40,000円	バス代 40,000円
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル笹団子レシピ考案 専門学校えぶろんより助言 			<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの笹団子づくり (専門学校えぶろん) 		

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・単なる調べ学習で終わらないよう、生徒が実体験することを重視した。
- ・「バーチャル市役所」というテーマのもと、新潟市のPRになる取り組みとして、オリジナルの笹団子を考案する活動を計画した。
- ・例年実施している「青陵米プロジェクト」として、今年度も田植え、稲刈りを計画した。

2 主な協力団体・協力者等

- ・専門学校えぷろん 様（笹団子づくり）
- ・そら野テラス 様（稲刈り）

3 成果

・生徒それぞれがオリジナルの笹団子をデザインし、専門学校の助言を受け、「チョコバナナ笹団子」の作成を行った。基本的な笹団子の作り方を学んだ上で、オリジナルの笹団子の作成に取りかかった。生徒たちは真剣かつ楽しく制作に取り組んでいた。その成果をスライドにまとめ、発表会で共有した。なお、「チョコバナナ笹団子」はモンゴルからの留学生2名が案を出したものであり、その2名も実習に参加し、文化交流の一つとなった。

・青陵米プロジェクトについては、天候の関係で田植えに参加することができなかった。稲刈りには参加し、刈り込み、ハサ掛けを体験した。生徒たちからは「楽しい」「農業も悪くない」といった声が聞かれた。

4 課題

・「調べて終わり」から「実際に体験する」へと発展することはできたが、「体験したことを次へ活かす」段階へとどのように展開していくかが今後の課題。また、稲刈りへの参加が少数であったため、より多くの生徒に体験の機会を与えたい。



笹団子の作り方を学ぶ生徒たち



完成した様子



考案したレシピ案



オリジナル笹団子作り



稲刈りのレクチャーを受ける様子



稲刈り & ハサ掛け完了

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	日本文理高等学校				学年	1 学年 (38 名)				
教科等	総合的な学習 (探究) の時間				関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくりを				
単元名	食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりしよう (5 3 時間)									
ねらい	体験的な学習を通して新潟市の食・農業に関する現状の把握と課題の発見を行い、課題解決のために協働的・主体的に取り組み、実行できるようにする。									
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識)新潟市における食・農分野の持続的な発展には、多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々がいることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自在に活用する技能) 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで正確かつ安定的に実施している。 ・(探究的な学習のよさの理解)新潟市の持続可能な環境の実現に関する理解は、食・農に関わる多様な人々や取組を探究してきたことの成果であることに気付いている。 <p>【思・判・表】・(課題の設定) 各々のミッション解決に向けて仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(情報の収集) 課題の解決に必要な情報を目的に応じた手段を選択して収集し、類別して蓄積している。 ・(整理・分析)新潟市の食・農の課題を整理し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして分析している。 ・(まとめ・表現) 相手や目的、意図に応じて論理的に表現し、学習活動を振り返って、学習や生活に生かしている <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 探究活動を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(主体性・協働性) 自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。 ・(将来展望・社会参画) 自己のあり方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、新潟市の持続可能な環境づくりに貢献している。 									
(1 学年) 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「探究学習とは？」 探究学習の概要説明を受け、探究学習のイメージを持つ (2 時間)</p> </div>		<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・大学出前授業を受講し、自分の興味のある分野を探る。 ・出前授業の振り返りを行い、自身の探究活動方針を模索する。 ・現状の把握と課題の確認(17 時間) </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けた行動を設定・計画立案 ・訪問先とアポイントメントをとる <p>訪問先 シェフパティシエ専門学校 (11 時間)</p> </div>		<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・調査活動 ・新潟の特産品を生かした品を考えてイラスト化する。 ・考案した品とポップを掲示し、投票しあう。 ・得票数が多かったものをシェフパティシエ専門学校へ提案し、プロの視点で選んでもらう。 ・シェフパティシエ専門学校の設備を使用して、商品と調理する。(19 時間) </div>		<div style="border: 2px dashed blue; padding: 5px;"> <p>調理体験を通して学んだことをプレゼン発表(4 時間)</p> </div>		
交通費の支援										
バス代 40,000 円 (40,000 円×1 学級)										



 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

1 本単元作成のポイント、留意点等

- 1 時間目(アンケート)商品開発(食品)の流れを体験してみたいという生徒が多い。
- 2 時間目(商品考案)新潟の特産品を生かした品を考えてイラスト化する。
- 3 時間目(商品紹介)作成したイラストを生成 AI を用いてイラスト化する。
考案した品を紹介するポップは手書きで作成。
- 4 時間目(商品選考)考案した品とポップを掲示し、お互いに投票しあう。
- 5 時間目(Web 会議)得票数が多かった 6 品をシェフパティシエ専門学校様へ提案。
実際に作成してみる商品をプロの目から選んでもらう。
- 6 時間目(調理準備)調理に必要な物資を調達する。
- 7～10 時間目(調理)シェフパティシエ専門学校様の設備を使用して、商品を調理する。
- 11 時間目(プレゼン)調理体験を通して学んだことを他クラスへプレゼンする。

2 主な協力団体・協力者等

シェフパティシエ専門学校

兒玉 智明様
牧野 義昭様
岩崎 翔 様
渡辺 浩二様



生徒が考えた料理 (イメージ)



生徒が実際に作成した料理

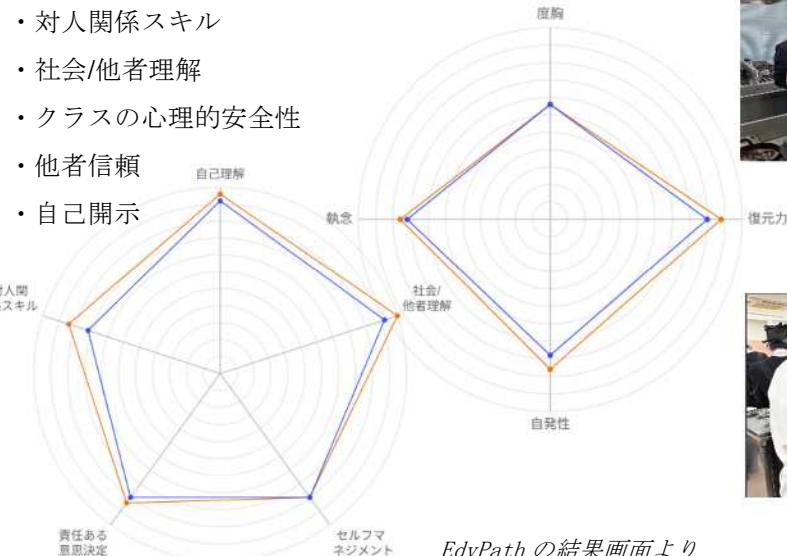
3 成果

(生徒の感想 抜粋)

- ・新潟の特産品や有名な食べ物を調べて新商品を考案したことで興味が深まった。
- ・新潟県産の材料を使って新しい商品を作り新潟県の特産品の良さを理解できた。

シェフパティシエ専門学校に訪問する前後の EdvPath の結果によると

- ・非認知能力（復元力・自発性）で有意な上昇が見られた。
- その他にも、以下の値で有意な上昇が見られた。



EdvPath の結果画面より

青線は 12 月 17 日計測

赤線は 12 月 22 日計測

(0.5 ポイント以上の上昇を有意な差とした)



調理の様子



製菓の様子

4 課題

- ・一人ひとりに適したメンターとの出会い。
- ・主体的になれるテーマ選び。
- ・移動の手段と資金



講師の先生と集合写真

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	にいがた製菓・調理専門学校えぷろん	学年	調理技術科2学年（36名）
教科等	食育活動	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさを守ろう
単元名	食育活動実習（30時間）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・調理師という立場から農作業を通して食材作りの意義を知り素材を活かした料理ができるようになり、周りの人に喜んでもらえるようになる。 ・農業を身近なことと捉え、農家レストランや農業を就職の選択肢に加える。 ・米粉への加工を学び米粉を使った料理を考案し、米粉の消費拡大につなげる。 		
評価規準	出席状況 授業のの取り組み		
4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを学ぶ 新潟市農業構想について 新潟市職員 三川の棚田の使用について 渡森 金子様 米作りの流れについて 渡森 渡辺社長様 <p style="text-align: center;">(3時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・田植え実習 三川の実習田で田植えを行う <p style="text-align: center;">(6時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・草取り実習 複数回にわけて開催 ・スマート農業について <p style="text-align: center;">(6時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り実習 ・調理実習のメニュー考案 ・米粉についての学習 <p style="text-align: center;">(6時間)</p>
交通費の支援		交通費の支援	
バス代 40,000円		バス代 40,000円	
10月	11月	12月	1月
<ul style="list-style-type: none"> ・脱穀実習 ・米の消費拡大のためのメニュー考案、実習 <p style="text-align: center;">(3時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米の製粉作業（アグリパーク利用） ・調理実習 ・米粉活用の試作 <p style="text-align: center;">(3時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 今後の農業について ・米粉を活用した商品づくり 学園祭での販売 ・レストラン実習での発表 <p style="text-align: center;">(3時間)</p>	
交通費の支援		学習成果の発信	
バス代 40,000円			



SDGsで3つの視点を

 : 未来も

 : まわりも

 : みんなも

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 にいがた製菓・調理専門学校えぶろん

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・「農作業を通して食材作りの意義を学び、素材を生かした料理ができる料理人をめざす。」という目標に合わせ、年間を通して何度かの農業体験を行う。季節ごとの山の変化や天候、気温などを直接感じ、米作りの苦労や喜びを学ぶ。害獣対策をすることで、自然との共存も学ぶ。
- ・「農業を身近なこと捉え、農家レストランや農業を就職の選択肢に加える」という目標に近づける活動として、米を製粉し米粉に加工し、米粉のメニュー開発を行う。自分たちが育てた米が形を変え、商品になっていくことで、新たな発見をし、次への課題や目標を考える。開発した商品をお客様に説明しながら販売し、1年間の成果を形にする。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟市食と花の推進課 目黒様
- ・株式会社渡森 渡辺建太様
- ・株式会社渡森 金子直樹様
- ・アグリパーク 製粉担当者様



渡森社長の講話

3 成果

- ・田植え 棚田のため手植えで行う。最初は戸惑っていたものの順調に作業することができた。
- ・稲刈り 猛暑の中の作業となり、自然の厳しさを痛感する。全員で協力し、豊作となった。収穫した稲穂をはさがけし、後日脱穀を行った。
- ・新米給食会 作ったお米とそれに合う料理を考え全校生徒と喫食した。美味しく食べてもらうことの喜びを実感できた。
- ・製粉 アグリパークで製粉作業を行う。製粉機の組み立て方や使い方を教えてもらい作業する。衛生的な環境の中、丁寧に作業することを学ぶ。
- ・販売 米粉のメニュー開発を行い学園祭で販売する。米粉のタコス、米粉のカレーパンを販売した。



実習田の様子



新米給食会で渡森社長



アグリパークで製粉



米粉のタコスの販売

4 課題

- ・様々な体験を通して農業への理解が深まったと思う。色々な農業従事者の方と交流を持ち、さらに理解を深めていきたい。
- ・米粉の加工についてももう少し時間をかけて行い、更なる可能性を広げたい。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	シェフパティシエ専門学校	学年	第2学年（54名）		
教科等	調理総合技術科：フードビジネス、総合技術演習、選択調理実習 製菓製パン技術科：フードビジネス、食育、製菓実習Ⅱ	関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくり 12 つくる責任つかう責任		
単元名	地域(新潟市、新潟県)の特産品を活用した商品開発をしよう（60時間）				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の特産品を料理や菓子、パンの材料に活用して、生産、消費に繋げる取り組みができる。 ・地産地消を意識して原材料の置換を経営的(経費的)な面から商品化をすることができる。 ・規格外の農産物を加工する仕組みを構築し、食品廃棄の減少に繋げる。 				
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識)・新潟市の農業の現状について理解している。 ・(新潟市の)食品流通の現状を理解している。</p> <p>・(自在に活用する技能)・季節に応じた新潟市の農産物を活用した料理や菓子、パンを製造し、提供することができる。</p> <p>・(探究的な学習のよさの理解)・新潟市の農産物について理解することは、持続可能な社会を形成するために必要な知識であることに気が付いている。</p> <p>【思・判・表】・(課題の設定)・新潟市の農産物について関心を持ち、活用するイメージを持っている。</p> <p>・(情報の収集)・新潟市の農産物を活用することを目的として、必要な情報を収集し、蓄積・整理している。</p> <p>・(整理・分析)・商品開発(新潟市の農産物を活用したレシピ考案)ができています。</p> <p>・(まとめ・表現)・食を通じて、新潟市が魅力ある街(政令市)であることを発信している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解)・新潟市や地域の魅力に気づき、自分が調理や菓子、パン製造を通じてできることを考えている。</p> <p>・(主体性・協働性)・商品開発(レシピ考案、調理、製造)を周りの意見も聞き、取り入れながら作成している。</p> <p>・(将来展望・社会参画) 就職した店舗で新潟市の食材を活用した料理や菓子、パンの提供をしている。</p>				
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
・新潟市の食と農に関する講話を依頼 (講師依頼) 【まわりも】 (1時間)	・生産者の方に講話を依頼(講師依頼) 【まわりも】(1時間) ・地産地消のためのレシピ考案【未来も】【まわりも】 (10時間)	・考案したレシピの学内および姉妹校への販売【まわりも】【みんなも】 (10時間)	・流通に関する施設の見学(貸し切りバス利用) 【まわりも】(6時間)		
(4月) 専門家の情報提供		(5月～6月) 専門家講師の派遣		(9月) 専門家講師の派遣 交通費の支援	
報償費 無償(新潟市の動画活用)		報償費 J A職員または生産者 無償		報償費 および 使用料及び賃貸料 流通業者など 無償 バス代 80,000円(40,000円×2学級分)	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
・考案したレシピを食花マルシェ等で販売【未来も】【まわりも】【みんなも】(10時間)	・学園祭に向けたレシピのブラッシュアップ【未来も】【まわりも】(10時間)			・学園祭での学習や成果の発表・販売【未来も】【まわりも】【みんなも】(12時間)	
(2月) 学習成果の発信					



令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 シェフパティシエ専門学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

調理・製菓の専門学校としての学習ポイント

① 食の専門家として知識、技術を深められる学習機会とした

・授業カリキュラム上、製造、加工に関する授業が多く、食品の生産、流通について学習することにより、消費者へ食品が届くまでを一体的に理解できるようにすること。また農産物をはじめ食品資源の有効利用や関連授業を設定した。

② 新潟市(地元)について学習する機会とした

・当校の学生は県内出身者がほとんどで、就職先も県内外にわたるため、新潟市および新潟県内で様々な農産物や郷土菓子、調理・製菓関係の道具が生産、流通、利用がされている観点で学生の重要な学びになるようにした。

③ 市産食材を活用した商品の製造、レシピ作品および展示を学習のまとめとした

・年間を通じて学習したことを、食花マルシェ、学園祭において、商品の販売、提供をすることとした。
 ・学園祭では、料理では規程食材の使用を課題としてレシピを作成し、作品として展示した。
 ・学園祭にて、学習内容をポスター作成し、活動内容の発表とした。

④ 本事業実施校への協力





・実施校（日本文理高校）から考案した料理や菓子のレシピの試作依頼を受け、当校教員の協力により実施した。

2 主な協力団体・協力者等

JA かがやき直販課 様
 新潟中央青果株式会社 様
 新潟市中央卸売市場 様
 たからやま醸造株式会社 様
 田中屋本店みなと工房 様
 新潟市食と花の推進課 など

3 成果

<年間学習内容>

写真	学習・活動内容
	◆新潟市の農業の現状について講話【まわりも】 JA かがやき直販課 様による、新潟市の農業の現状と、JA の役割について講話を実施した。
	◆校外授業【まわりも】 ・新潟市内の食に関わる施設を訪問(新潟中央卸売市場 やたからやま酒造、田中屋本店みなと工房を訪問) ・二次産業、三次産業まで学習することができた。
	◆食花マルシェ【まわりも】【みんなも】【未来も】 ・様々な市産食材を利用した菓子販売を実施した。
	◆シェパ祭(学園祭)【まわりも】【みんなも】【未来も】 ・学園祭において、作品展示、提供商品、学習ポスターを通じて、学習のまとめ・発表した。

4 課題

・関係授業のカリキュラムの調整。
 ・学習日程、内容の検討、調整。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	国際調理製菓専門学校	学年	パティシエ学科第1学年 (25名)		
教科等	食育実習	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに		
単元名	新潟の食材で魅力ある商品を生み出し地域に貢献しよう (40時間)				
ねらい	学生に食料産業全体についての知識の教授を行い、食の分野に携わる職業人としての理解を深める				
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識) 食料の流通と第1次産業分野のいちごの生育に関して学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自在に活用する技能) 製菓衛生師としての食料判別能力 ・(探究的な学習のよさの理解) 学習内容の理解し食材への知識を深める <p>【思・判・表】・(課題の設定) 中央卸売市場での流通に関する理解、白根グレープガーデンでの果物(特にいちご)の採取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(情報の収集) 農林水産省等のHPによる作物の収穫状況の確認 ・(整理・分析) 講話の内容と上記収集した情報の精査による仮説の設定、および結論の導き出し ・(まとめ・表現) 上記内容を踏まえてプレゼンテーションの実施 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 食料産業の構造とそこで働く方々の苦勞を学ぶことで自己理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(主体性・協働性) 自ら発問し問題を解決する姿勢を身に付ける ・(将来展望・社会参画) 新潟市産の食材への理解。その食材を使用した料理(製菓・パン)の提供 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>・新潟市の農業の現状について、教材用動画の視聴等により学ぶ (1時間)</p> </div>	<div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>・食料の流通と第1次産業分野のいちごの生育に関して学ぶ (訪問先) 新潟中央卸売市場 白根グレープガーデン (7時間)</p> </div>	<div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>・農林水産省のHPによる作物の収穫状況の確認 (2時間)</p> </div>	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>・地産地消のためのレシピ考案【未来も】【まわりも】 (5時間)</p> </div>		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>・考案したレシピの販売【まわりも】【みんなも】(5時間)</p> </div>	<div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>・最前線で活躍するパティシエによる講話を依頼(講師依頼)(2時間)</p> <p>・学園祭に向けたレシピのブラッシュアップ</p> </div>	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>・学園祭等で学習や成果の発表・販売 【未来も】【まわりも】【みんなも】 (18時間)</p> </div>			



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 国際調理製菓専門学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・果物（主にいちご）の収穫
- ・果物（主に梨）の摘果
- ・小麦の収穫
- ・弥彦小学校の子どものスイーツ開発に協力



小麦の収穫



いちごの収穫



販売時の食育連携告知

2 主な協力団体・協力者等

- ・白根グレープガーデン 様
- ・株式会社 伊彌彦 様
- ・農業法人第四生産組合 様
- ・弥彦村役場 様
- ・弥彦小学校 様
- ・弥彦村教育委員会 様

3 成果

- ・スイーツに使用できる果物の生育状況に関する理解を深めることができた。
- ・収穫した小麦を使用してパン作り。販売実習を通して、産地や取り組みに関して一般の方々に理解してもらった事ができた。
- ・弥彦小学校の児童が提案したスイーツを収穫した小麦で制作することができた。



弥彦小学校との連携

4 課題

- ・導入時の意識付け教育の重要性
目標やねらいを明確に定め、視覚的に理解させながら実習に入る必要がある。
- ・企業や団体との更なる連携
こちら側の要望を受け入れていただく内容が多いため双方にとって有益な連携事業になるように仕掛けが必要になる。



小麦収穫



制作したパン

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	新潟医療福祉大学	学年	健康栄養学科第3学年 (42名)
教科等	公衆栄養学Ⅱ・公衆栄養学実習Ⅰ	関連 SDGs	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに
単元名	公衆栄養プログラムの作成 (30時間)		
ねらい	自治体の健康・栄養課題を解決する公衆栄養プログラムづくりの中で、新潟市の食と農を活用した事業提案(4つのライフステージ:乳幼児期・学童思春期・成人期・高齢期)ができる。		
評価規準	<p>【知識・技能】・(概念的な知識)新潟市の優先的な健康・栄養課題を抽出し、その解決のために「新潟市の食と農」が重要な役割を果たすことが理解できる。</p> <p>・(自在に活用する技能)健康づくりは個人の努力だけではなく、食環境づくりが重要であることから、「食のアクセス(直売所、スーパーマーケット、飲食店など)」と「食の情報(家庭、保育所、学校、事業所、地域の茶の間などでの食教育)」の実際について、新潟市をフィールドに学び、考えることができる。</p> <p>・(探究的な学習のよさの理解)自治体を新潟市に絞ることにより、健康・栄養課題、要因分析(食行動・環境)、食と農に関する情報をより専門家から学ぶことができる。</p> <p>【思・判・表】・(課題の設定)ライフステージ別に新潟市の優先的な健康・栄養課題を設定する。</p> <p>・(情報の収集)新潟市の健康増進計画、食育推進計画、母子保健計画、データヘルス計画、高齢者保健福祉計画、新潟市の各種統計、関連論文から情報収集する。</p> <p>・(整理・分析)プリシード・プロシードモデル(ヘルスプロモーション活動企画・立案・実施・評価のためのフレームワーク)を用いて整理・分析する。</p> <p>・(まとめ・表現)公衆栄養プログラムの発表・討議を通じて、理解を深める。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解)グループ作業を通じて、自らの役割を理解し、メンバーと協力して、プログラムづくりに関わることの必要性が理解できる。</p> <p>・(主体性・協働性)グループ作業に自ら主体的に関わり、同時にメンバーとの役割分担や意見交換を通じて、協働作業の重要性が理解できる。</p> <p>・(将来展望・社会参画)学生提案の公衆栄養プログラム(子供～高齢者)が、今後の新潟市の持続可能な地域(まち)づくりに役立つことが実感できる。</p>		

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1. 新潟市の優先的な健康・栄養課題を設定する。 (10時間)	2. 健康・栄養課題に関連する行動や地域の環境について調べる。 ・新潟市職員を講師に迎え、新潟市食育推進計画の概要と実際の食育活動を学ぶ中で、新潟市の食と農が、健康づくり活動とどのようにつながり、展開されているのかが理解できる。 (10時間)	3. 健康・栄養課題に関連する要因を分析する。 ・地元北区の直売所と農家の見学、体験を通じて、食と農に関する生産や加工販売の経営側の視点を学び、健康づくり事業との関連を探る。北区の食生活改善推進委員との調理交流を通じて、食と農を関連づけた地区組織活動の実際を学ぶ。 4. 公衆栄養プログラムを企画立案する。 5. 全体発表・討議を通じてプログラムの学びを深める。 ・学生の討議と新潟市食と花の推進課職員の講評により、健康づくりと食と農を関連づけた実効性の高い事業提案ができる。 (10時間)			
専門家の情報提供	専門家講師の派遣	交通費の支援			
報償費 市職員 無償、生産者、直売所、食生活改善推進委員@5,000円×3人			使用料及び賃賃料 バス代 80,000円(40,000円×2学級)		
10月	11月	12月	1月	2月	3月



SDGsで3つの視点を

[Red dashed box]	[Green dashed box]	[Blue dashed box]
: 未来も	: まわりも	: みんなも

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 新潟医療福祉大学

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・ライフステージ別（乳幼児期・学童思春期・成人期・高齢期）に新潟市の優先的な健康・栄養課題を抽出し、その解決のために「新潟市の食と農」を生かした事業提案（公衆栄養プログラム）ができるように体験型学習の機会を設けた。
- ・対象自治体を新潟市に絞ることで、健康づくりに欠かせない食環境づくり「食のアクセス（直売所、スーパーマーケット、飲食店）」と「食の情報（家庭、保育所、学校、事業所での食教育）」の両面を、調べ学習と専門家から学べるようにした。
- ・大学のある北区の農家や直売所の方から、日頃の活動や消費者への思いなどを直に学び、食に関する生産、流通、加工、販売の一連の流れを理解したうえで、健康に配慮した食環境づくりを事業提案できるようにした。
- ・北区は市内でも脳血管疾患死亡率が高い地域のため、「減塩」をテーマに北区の食生活改善推進員さんよりおすすめ減塩レシピ紹介、調理実習、意見交換を取り入れる企画とした。
- ・発表会では、新潟市食と花の推進課の方から講評いただくことで、より実践的な事業提案ができるようにした。



大学での事前の調べ学習



直売所の弁当販売コーナー



トマト農家の見学

2 主な協力団体・協力者等

- ・わくわくファーム豊栄店 店長 筑井和男 様
- ・トマト農家 広川喜雄 様
- ・新潟市食生活改善推進委員協議会
北区支部長 小熊美弥子 様 他4人
- ・新潟市食と花の推進課職員

【今年度のプログラム】

(時期) 2025年5月～7月
(対象) 3年生42人
(内容)
5～6月 新潟市の健康課題を解決する公衆栄養プログラムの作成
6/24 北区トマト農家の見学
北区直売所の見学
7/1 北区食推との調理交流
7/15 公衆栄養プログラムの発表会

3 成果

- ・新潟市食と花の推進課の専門家（管理栄養士）や農家さん、直売所の方、食推さんからの学びは、授業だけではイメージしにくい「食のアクセス」「食の情報」の実際について、理解を深めることができ、公衆栄養プログラムづくりに役立った。
- ・北区の食推さんとの調理交流では、地域の健康課題を把握した上で、地元食材の活用やおいしさにこだわった減塩レシピが考案されており、地域や住民の特性を踏まえた食生活改善の取組の重要性を学ぶことができた。
- ・発表会では、学生の発表に対して、新潟市食と花の推進課の職員2名（管理栄養士、教員）から課題解決の方法や実現可能性などを講評いただき、より実践的な事業の組み立て方のポイントが理解できた。
- ・学生アンケートの結果から、本事業に参加して健康づくりに必要な「食環境づくり」「食と農の連携」の意義が理解でき、有意義であったとの声が多数聞かれた。また、食推さんの地域の食生活改善に対する熱意に刺激を受けた者も多かった。
- ・食推さんとの交流を学科ブログとして発信し、アクセス数も多かった。



北区の食推さんとの調理実習



野菜たっぷりの減塩レシピ



食推活動について意見交換

4 課題

- ・食推さんとの調理交流では、次年度は学生も地場産品を取り入れた減塩レシピを考案、調理できるように企画し、意見交換を通じてより理解が深まる内容とする。
- ・授業（公衆栄養学）の特性上、SDGsの17目標のうち、目標3（全ての人に健康と福祉を）と目標4（質の高い教育をみんなに）が中心になるが、今後は食料自給率や食品ロス問題とも関連づけたプログラムも検討したい。
- ・学生には授業以外でも、地場産の野菜や果物の消費拡大につながる活動（ボランティア活動など）に積極的に参加するよう働きかける。

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	新潟国際情報大学	学年	第1～4年（20名程度）		
教科等	総合的な学習（探究）の時間 50時間	関連 SDGs	3 すべての人に健康と福祉を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう		
単元名（テーマ）	食と農の未来を探る ―スマート農業・自然栽培・6次産業化―				
ねらい	地域社会のありかたを創造できる人材育成				
評価規準	<p>大学科目「ラボ」における学習として位置づける。講義中心ではなく、フィールドワーク・インタビュー・調査を通じて地域農業を探究する学習である。環境調和型農業とスマート農業の両面から農業の多様性を理解し、課題設定・情報収集・分析・発表までを学生主体で行う探究型学習を目指す。</p> <p>【【知識・技能】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（概念的な知識）地域農業の現状や課題について理解している。 ・（調査技能）文献調査、フィールド視察、インタビュー等を通して、食と農に関する必要な情報を収集している。 ・（技能の活用）収集した情報を整理・記録し、報告書等としてまとめている。 <p>【【思考・判断・表現】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（課題の設定）フィールド視察や講義で得た知見をもとに課題を設定している。 ・（情報の収集）課題解決に必要な情報を多様な方法で収集し、整理している。 ・（整理・分析）収集した情報をもとに課題構造を分析している。 ・（まとめ・表現）分析結果を踏まえ、課題の解決策を提案している。 <p>【【主体的に学習に取り組む態度】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（自己理解・他者理解）地域の実践者の考えや経験を理解し、自分にできることを考えている。 ・（主体性・協働性）異なる視点を尊重しながら議論し、学びを深めている。 ・（将来展望・社会参画）学習成果を報告書等として整理し、協力いただいた地域の方へフィードバックしている。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<p>・ラボ授業「食と農のSDGs学習」説明会 4月21日（参加者12名） （1.5時間）</p>	<p>・昼休み「食べながらプチ講義」（本学教員・学生による講演）計3回（3時間）</p> <p>・学外フィールド視察①：宮尾農園、田植えワークショップ；6月15日（参加者12名）（6時間）</p> <p>・にいがた市民大学公開講座「水と緑・食と農が育む環境共生社会～人新世の視点から」古沢広祐（國學院大學客員教授）；6月21日（参加者18名）（3時間）</p>	<p>・学外フィールド視察②： 宮尾農園、草取りワークショップ・動画撮影 7月6日（参加者8名）（6時間）</p> <p>・新潟市食と花の推進課作成教材動画の視聴・討議、感想文作成（同課フィードバック）・前期学習まとめ（参加者11名）（3時間）</p>	<p>・参加者各自が自主的に事前学習を行う期間（動画編集；インタビュー調査の準備など）</p>		
<p>専門家講師の派遣 報償費 14,600円</p>					
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>・学外フィールド視察③：宮尾農園、稲刈りワークショップ10月5日（参加者12名）（6時間）</p> <p>・一般社団法人東北経済連合会主催「AgriTech Lab」（農業の未来を共創する実践型イベント）参加・会場提供 10月25日（参加者11名） （7時間）</p>	<p>・学外フィールド視察④：エンカレッジファーマー株式会社 11月7日（参加者11名）（2時間）</p> <p>・学外フィールドワーク⑤：「フードメッセ in にいがた」2025・インタビュー調査</p> <p>・「6次産業化の秘訣～人と農が輝くさつまいも経営戦略～」株式会社農プロデュース リッツ新谷 梨恵子氏講演 11月12-13日（参加者11名）（計8時間）</p>	<p>・インタビュー調査：農プロデュース リッツ・新谷梨恵子氏（参加者2名）12月2日（2時間）</p> <p>・活動報告書・インタビュー資料の取りまとめ、フィールド視察写真・動画の整理・編集、記録動画作成</p>	<p>・1月13日 卒業論文発表会・プログラム関連のテーマ： ・『人手不足産業へのロボット導入と労働環境改～海外事例から学ぶ課題克服のヒント～』 ・『日本の六次産業化政策 ―地域活性化への貢献度と政策評価―』</p>		
<p>専門家講師の派遣 報償費 14,600円</p>					

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 新潟国際情報大学

1 本単元作成のポイント、留意点等

・本学の基本理念の一つは「地域社会のあり方を創造できる人材の育成」である。本プログラムではこの理念に基づき、学生主体の学習を重視している。今年度は前期を授業科目「ラボ」として実施し、後期は複数のゼミ活動の中に組み込む形で展開した。

本年度は3期目の実施となり、継続的な活動の成果が見え始めている。第一に、3期連続で参加した学生や教員の経験を新入生に伝えるため、本学教員および先輩学生による講演を取り入れた。これにより、農業や環境分野の知識がない学生でも主体的に学習へ参加しやすい環境が形成された。第二に、視察先の協力者との継続的な交流を通して、農業現場の変化や新たな課題を継続的に学ぶ機会が生まれた。参加学生も事前知識を踏まえた具体的で発展的な質問を行うようになり、学習内容の深化が見られた。



宮尾農園ワークショップ

2 主な協力団体・協力者等

- ・宮尾浩史様（宮尾農園）（3期目）
- ・エンカレッジファーム株式会社様（3期目）
- ・新谷梨恵子様（株式会社農プロデュース リッツ）（2期目）
- ・古沢 広祐様（NPO 法人「環境・持続社会」研究センター）
- ・一般社団法人東北経済連合会様

3 成果

・宮尾農園様での田植え・草取り・稲刈りワークショップでは、学生は日常的に食べている米の生産過程を体験し、農業の労力や重要性を実感した。また自然栽培の実践者との勉強会を通して、無肥料・無農薬農業における土づくりや水管理の重要性、米農家の高齢化や後継者問題などの課題について理解を深めた。さらに、気候変動への対応として作業時期を調整し収量や品質を維持する工夫についても学んだ。

・エンカレッジファーム株式会社への視察は3回目となる。

最先端リーフレタス栽培施設を見学し、種まきから収穫までの全自動化技術や「大規模環境制御型栽培ハウス」の仕組みを学んだ。近藤史章氏との質疑応答では、新潟の豪雪や猛暑に対応した温室農業の可能性や、肥料・種子の輸入依存による経営リスク

など、現代農業が直面する課題について説明を受けた。

学内講演・演習

・「ゼミ・クラブ・農業・地域連携―“やってみる”から

始まった私の大学生活」河内天良氏（4年、プログラム参加3期目）

・「食品ロスと一緒に考えよう！―社会人・ビジネスマン・学生としての経験から生まれた“もったいない”意識」長野健二郎氏（4年、プログラム参加3期目）

先輩学生の講演は参加学生にとって身近であり、自由で活発な議論が行われた。農業や環境といった専門外のテーマであっても主体的に取り組めるという意識を後輩学生に与える機会となった。

・ラムサール条約都市新潟の研究に取り組む本学澤口晋一教授が「越後平野の湿地の成り立ち」について講義を行い、地域の自然環境と農業の関係への理解を深めた。

学内・学外実践

国際学部4年生の河内さんは、農業活動に取り組み、サツマイモや複数の野菜を栽培した。学内では野菜の販売企画を2回実施し、それらを活用した調理実習も行われた。食品ロスを考え、規格外サツマイモを活用したパン作りにも取り組み、農業・食・社会課題を結びつけた実践的な学習活動が展開された。

4 課題

・今年度は5つの講演と複数回の現地視察、ワークショップ型活動への参加など、非常に充実した内容となった。一方で授業時間のみでの運営には限界があり、計画に変更が多かった。すべての活動に全学生が継続的に参加できる工夫も必要。

・今年度は、成果発表や報告書に加え、卒業論文、本学学報「国際・情報」、国際学部紀要への投稿など研究成果としての発信も行われた。今後は成果発信の機会を増やし、継続的な地域連携を生かしたより深い学習を目指していきたい。



エンカレッジファーム株式会社視察



インタビュー調査



学内学習・講義



河内さんが栽培した野菜での調理

令和7年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	新潟大学	学年	第3学年 (35名)		
教科等	農学部農学科食品科学プログラム	関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナリシップで目標を達成しよう		
单元名	食品科学プログラム実地見学 (12時間)				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造施設や研究・開発機関の見学や解説を通じ、食品の開発、製造、品質管理、研究等がどのように行われているのかを理解する。 ・大学での講義内容が食品製造や食品研究で活用されていることを理解する。 				
評価規準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(概念的な知識) 新潟市の食の現状について理解している。 ・(自在に活用する技能) 目的に応じた食品加工技術を理解している。 ・(探究的な学習のよさの理解) 実用規模の製造現場を見て、商品・製品開発、加工技術、食品衛生や研究に関する話を聞き、大学の講義で学んだことの実社会での活用を理解している。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(課題の設定) 商品・製品開発、食品加工に関心を持ち、目的や特徴を把握している。 ・(情報の収集) 食品原料を活用して食品加工を行うことについて、必要な情報を収集し、蓄積、整理している。 ・(整理・分析) 新潟市に食品の加工業や技術が発達していることを理解している。 ・(まとめ・表現) 大学での食や農に関する他の講義内容が、食品製造や研究開発の場で活用されていることを理解している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自己理解・他者理解) 新潟市の食品加工の魅力に気づいている。 ・(主体性・協働性) 主体的に調べ、また技術者等との意見交換を行い、特徴と課題を整理している。 ・(将来展望・社会参画) 商品開発や加工方法について、また未解決の課題に対する意見を聞き、解決策等を考えている。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>【ガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスを実施。 ・目的、実施方法、事前学習等について解説。 <p style="text-align: center;">(1時間)</p> </div>					
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的等の確認。 ・新潟市の食品産業、訪問先の概要を事前学習。 ・事業者が有する食品の加工技術について、論文、図書、Web サイト等の情報を使って調べる。 ・本実地見学に関連する食品工学、食品衛生学等 (受講済み) を復習。 <p style="text-align: center;">(5時間)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【実地見学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品製造事業者等の現場に見学に行く。 ・技術者から加工技術や衛生等の解説を受ける。 ・技術者等との意見交換を実施。 <p>【事後学習・課題レポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをレポートにまとめ、事業者に共有。 <p style="text-align: center;">(6時間)</p> </div> </div>					

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・大学の講義で学習する内容が食品開発、製造等の場での活用を理解する。
- ・6次産業化について学ぶ機会が少ないことから、新潟市アグリパーク様において専門家より解説を受け、またSDGsと関連させて学習する。
- ・食品製造の研修施設や食品加工施設等の事前学習、講義、実地見学を通じ、6次産業化、素材品質、食品の開発、製造、品質管理、販売、学習等がどのように行われているのかを理解する。

【事前学習】

- ・目的、実施方法等を説明。
- ・新潟市の農産物、食品産業、6次産業、食品加工、受講先の概要を事前学習する。
- ・本実地見学に関連する食品製造学、食品衛生学等の講義を受講する。

【実地見学】

- ・アグリパーク様において専門家から農産物の特徴、6次産業化、研修制度等について専門家より解説を受ける。また加工施設等を見学し、詳しい解説を受ける。
- ・専門家との意見交換を実施する。

【事後学習・課題レポート】

- ・学習したことをレポートにまとめ、事業者と共有する。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟市アグリパーク
館長 五十嵐様、食品加工センター長 中野様、職員の皆様

3 成果

- ・新潟市の産業の特徴を学習した。
- ・6次産業化について、必要性、支援体制、事例、課題等を学習した。
- ・SDGs 目標 8「働きがいも経済成長も」の実現に関し、農業に携わりたいと考える人々に対して生産面・販売面等から成長を支える仕組みが整えられていた。具体的には栽培技術の指導等に加え、食品加工の技術を学べる講座や研修が用意されており、加工食品をつくるための設備や機械の利用も行われていた。農業生産活動だけでなく、加工食品生産者として自立するための基盤が総合的に支援されるシステムがあることを知った。
- ・6次産業化支援、就農支援、食品加工講座などは生涯学習にも繋がると感じた。また農業や調理のプロフェッショナルから学ぶ質の高い学習提供方法を知った。
- ・食品加工に用いる各種機器を実際に見学し、機器の特徴や配置の意味まで学び、座学では得られない学習であった。
- ・食品加工や食品開発による高付加価値化に興味を持つ受講者が多かったが、材料、ロス、経費、資金、包装、販売法などまで総合的に考える契機となった。



講師による講演



事例の学習

4 課題

- ・充実した講義と施設であった。当受講者にとっては、もし研修施設の見学学習時間を少し増やしていただくことが可能でしたらより充実した学習になると思われた。



**食と農のわくわくSDGs学習
令和7年度実施校 実践事例集**



SDGs 新潟市
新潟市

**発行者 新潟市教育委員会学校支援課
新潟市農林水産部食と花の推進課**

発行日 2026年3月31日
